



# Relive Journal



## いろいろ” ジャーナル No.44

2022年 盛夏号 (7月20日発行)

### < “いろいろ” 憲章 >

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“いろいろ”と呼び、その生き方をサポートします

### <目次>

1. 脳梗塞リハビリ奮戦記 (楽しい人生を求めて) (R&I 顧問・会員 渡嶋 八洲夫)
2. 垣根のないスポーツ、ボッチャの魅力 (松永 和子)
3. 走行は計画的に (会員 鳥居 雄司)
4. バリ島 チャンディダサの日々 ③ サブツクんの青春 (黒部 正也)
5. バリ島 チャンディダサの日々 ④ トゥンガナン村の結婚式 (黒部 正也)
6. 「川島康生(やすなる)先生を囲む会」 (取り纏め: R&I 関西支部長 阿賀 敏雄)
  - ・ 本会の趣旨について (会員 伊丹 淳一)
  - ・ 川島康生先生に捧げる詩 (会員 ヤスコ Wild (杉山 泰子))
7. 「ジミー、日本人は非常に能率の良い人種だ！」とフレッドが叫んだ。 (会員 赤神 潔)
8. 熊野詣 & 追悼 (会員 石尾 賢一)
 

なお 熊野詣 内の挿入絵は、会員 飯田 誠 氏の作品



## 1. 脳梗塞リハビリ奮戦記

(楽しい人生を求めて)

元キャメロン会 会長  
R&I 顧問・会員 渡嶋八洲夫



2022 年2月何の前触れなく、脳梗塞を患い3ヶ月の入院を経て退院、7月現在自宅から市内のリハビリデイサービスのピーナスプラス東大和に通っている。

脳梗塞の当日、朝目覚めたが歩くことができず、何が起ったかわからず。救急車に電話すぐに来てくれたが、このコロナの時期なので入院する病院が見つかるか否か分からないまま、救急車が探し始めてくれた。幸運にも近所の東大和病院に1床の空があるとのこと直ちに東大和病院に入院した。

### (東大和市東大和病院に入院) 2月中旬

夜間の患者の受け入れ等で病室は忙しく夜間の電灯はつけっぱなしで明るく、病床は満杯。スタッフの大声が飛び交う中、熟睡はできなかった。それに加え喉が詰まらぬようトロミのついた食事で美味しくなく食欲もなく早い退院を望むのみだった。

入院とともにリハビリはすぐに始まり理学療法士による「身体のマッサージ」、「食事・飲料のみこみ改善」「発声の練習に」に加え多少の歩行等多岐にわたるリハビリをうけた。専門理学療法士

がベッドまで来てできてくれてリハビリ受けたがこの時期思考力の低下がありこの時期のことはあまり覚えていない。

コロナのため家族との面会は禁止、着替えは担当看護師に家族が当たすと不便であった。もちろん 飲料品、お菓子の差し入れは許可されず、飲み物は緑茶と水を看護師にたのむ以外になく無性に、コーヒー、紅茶、冷たい飲料品がほしかった。もちろん現金の保持もゆるされなかったので買い食いもできない。まずい食事と飲料品の禁止は我慢するしかなかった。

(注)「理学療法士」・・・専門学校(3~4年)、短大(3年)、大学(4年)で解剖学、生理学、運動学、臨床心理学等を学んだ後厚生省主管の国家試験「理学療法士」の合格が必要。患者にはマッサージを行い、歩行訓練、日常生活に必要な運動能力の筋肉トレーニング等を指導する。リハビリの中心人物的存在、優秀な「理学療法士」多い。

### (小平市緑成会に転院) 3月上旬

3月に入り、リハビリ専門の緑成会病院に転院した。幸い家からも近く、東大和病院の紹介であった。事前に緑成会病院、市のケアマネジャーと家族とで今後のリハビリと最終目標が話されていた。目標は住み慣れた我が家で暮らし、デイケアでリハビリを続けスポーツジムに通い、海外旅行にも行ける程度までの回復を望んだ。

東大和病院で懲りたので、熟睡が可能な1人病室を要望し幸い1人部屋に入れたので熟睡出来、TV鑑賞もいつでも可能で時間を持て余すことはなくなった。大部屋の人は昼間食堂に決まった場所が指定され、そこに座ってボーと過ごすのみ、読書している人も見受けられなかった、その忍耐強さには感心した。

ここでも食事のまずさは変わらず、トロミの食事はある時期から普通食に代わったが閉口した。特に冷たい飲料品をとることはゆるされなかった。午前と午後に異なる理学療法士が20分のマッサージをしてくれる、痛みや凝っている場所を言うとの確にマッサージしてくれた。「食事飲みこみ訓練」も繰り返し指導してくれた。「発声訓練」も資格を有する療法士が声を出しての朗読で発音を直してくれる(隣の客はよく柿食う客だ)のように、発音しにくい朗読も繰り返し指導してく



れた。口回りの筋力アップ強化もおこなわれた。散髪は病院内でうけ、外部からの職人にしてもらった。週2回の風呂にはスタッフが介助して入浴できるのはありがたい。

### **（退院して自宅からリハビリ専門機関に通う）** **2022年4月末**

大喜びで退院を待つ。家族、病院関係者、ケアマネジャー、ピーナスプラス管理者が一同に会し、退院の可否を検討退院後のリハビリも決めてくれた。

実際の退院はその週の週末と決まった。今後は家から通うことになる。送迎車付きとはありがたい。

- ① 月曜日・水曜日の午前の半日のリハビリは時間の配分も良く、ピーナスプラスでお願いした。機能訓練指導員、生活指導員、介護職員、看護職員も決まった。リハビリメニューもきまった。（詳細は後でふれる）
- ② 木曜日並び土曜日 13時～14時30分、は従来の小平緑成会病院でできた。緑成会病院のリハビリは病院までの往復を考えると実質1時間程度なので理学療法士による20分のマッサージが主。半日のコースはなく1日コースになり長すぎる。いずれピーナスプラスに統一を考えるようになる。



今後お世話になるデイケア リハビリ事業所ピーナスプラスを紹介しよう。関西では手広く事業を展開しているが最近では関東にも事業所の開設が続く、東大和は1年前スターしたが活況を呈している。7月から土曜日午前午後のグループ

が増えた、立川、所沢の事業所も盛況、今年に入ってから鶴見（大阪市）、狛江（東京都）、瓢箪山（大阪府）のピーナスプラスが設立された。経営理念は「超健康社会を日本のスタンダードに」だ。若い女性スタッフに尋ねてみたが、即座に同じ回答がかえってきた。この種経営理念は社員全員に徹底することは難しいことだが彼女の即答に感心する。

ピーナスプラスでの3時間余のリハビリは①体操（1、準備体操、2、コグニサイズ、3、マウササイズ、4、整理体操他）、②筋力強化（リカベンバイク、ゴムボール等）、③歩行練習（平行棒、ウオーキングマシン、立ち上がり訓練）、④認知訓練（脳トレ他）、⑤物理療法（メドマー、ホットパック、足癒）、⑥バランス改善、⑦生活動作訓練（更衣、排せつ動作等）、⑧食事指導、⑨口腔機能内指導と充実している。

朝8時45分バスの出迎えを受け事業所に向かう。到着後水分の補給をうける、スタッフ指導のもと準備体操を行った後順序は不動だが、備え付けの器具10余種を用いて脚、腕、等の筋肉トレーニング、歩行訓練、認知訓練、筋肉のリラックスも入る。理学療法士は全員にリハビリ（マッサージ、歩行訓練、筋肉トレーニングを行う）。

各種の体操は①始めに、②中途、③最終段階で体操がはいる。10時30分ごろには2回目の体操が入る、コグニサイズと呼ばれるピーナス独自の体操がスクリーンに映しだされ声を出しながら手足を動かすことは思ったより難しい体操だが2つのことを同時に動かすことは脳活性化には良い。

ピーナスプラスの指導方針は「自立実現」、会員には①楽しもう②チャレンジ③自分でできることは自分でやる等自立が期待される。

それでもスタッフは頻繁に会員に聞き器具への招聘をおこなう。

**（注）コグニサイズ・・・**国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題「をくみあわせた認知機能向上を目的とした取り組み。頭を使いながらの運動は認知の衰えを予防する。コグニウオーク、コグニリズムがある。Cognition+Exerciseの造語。

引き続き順次各部位に有効な筋肉トレーニングやリラクゼーションを行う、理学療法士によるリ





ハビリを受ける。最後は①マウササイズ（口腔機能訓練）、②リズム体操、③整理体操を行い水素水をいただきリハビリを閉じる

### （脳梗塞のリハビリを始めて4ヶ月余になるが現状を記す）2022年7月の状況

ベッドからの寝起きも手すりを利用して可能。昼・夜の排尿も一人で済ませる。食事で喉を積ますこともほとんどない。日常の衣服の脱着の介助不要。部屋内での歩行は杖なし、掴まりなしで歩行している。近所（200m程度）の用足しには杖をつく。ピーナスの毎日のメニューは（負荷は大きめで）100%行なっている。長距離の歩行には疲れがでる。都内への遠出は家族が付き添う。検査では握力が弱く（左14kg、左21kg）改善が必要だ。

### （緑盛会病院に通うことをやめピーナスに週4日通い始める）2022年7月

設備とスタッフにも恵まれたピーナスプラスに週4日通いリハビリにより精進することに決めた。



月曜日午前、水曜日午後、金曜日午前、土曜日午後のスケジュールも決まった。リハビリの道のり長かろうとも今後もリハビリに邁進する。

以上

## 2. 垣根のないスポーツ、 ボッチャの魅力

松永 和子

はじめまして！ 私は6年前まで多摩北エリアで「ほのぼのマイタウン」というタウン誌を30年発行していました。その中で連載したフリージャーナリスト國米家己三（こくまい・かきそう）さんのエッセイ「日本人さがし」を「りらいぶ・ジャーナル」に転載していただいていた。そんなご縁から「りらいぶ・ジャーナル」にひょんなことから寄稿させていただくことになりました。今回は私が今、何よりもハマっている「ボッチャ」について紹介しましょう。

### ボッチャとの出会い

パラスポーツのボッチャはご存じですか？ 昨年の東京パラリンピックで日本人選手が個人でも団体でもメダルを獲得した球技です。ボッチャとはイタリア語でボールのこと。もともとは重度障害者スポーツとしてヨーロッパで考案されたものです。

赤と青のボール6個ずつとジャックボールという白い的球を使って競技します。赤チームと青チームに分かれて、的球に狙いを定めて投げたり、転がしたりして近い方が勝ちという単純なゲーム。どんな投げ方でもOK、老いも若き（子ども）も障がいがあってもレクリエーションとしても競技としても楽しめるユニバーサルスポーツであるところがボッチャの魅力です。

私は東京 2020 大会を前にオリンピックで街を盛り上げようと、2019年から在住する小平の市民プロジェクトメンバーとして新聞作りのボランティア活動をしていました。市民プロジェクトの中のスポーツチームはボッチャを広めたいと体験会などを開催していました。そこに参加してみた時のこと、初めてながら試合形式でボールを転がしてみると、「あら、的球の近くにいった！」。みなさんが拍手してくれ、嬉しかったのを憶えています。初心者でも即参加できて、楽しみ



ながら競うというボッチャの面白さに惹かれていきました。

### 市のボッチャ大会で準優勝！

昨年には市民プロジェクトスポーツチームの人々が中心となり、小平市ボッチャ協会を設立しました。私は協会主催の不定期な練習会などに参加して、ボッチャをやれる日が楽しみで仕方ありませんでした。練習試合とはいえすべてを忘れて集中でき、勝った時はチームで喜び合い、ストレス解消にもってこいからです。

昨年11月に近くの公民館をホームとする「笑顔でボッチャの会」が立ち上がり、私もメンバーとして入会しました。そして今年の3月小平市主催の「第1回こだいらボッチャ大会～こだッチャ杯～」が開催されました。誰でも参加できる大会です。パラリンピックを契機に小平もボッチャ人口が増えましたので、たくさんのチームが応募し、抽選で16チームが選ばれるのですが、何とその中に私たちのチームもあったのです。

新しいサークルのため、1チーム5人（試合は3人1チームですが交替要員も含めて）のメンバーが揃わない。「どうしましょう？」2人は2、3年前からプレーしている先輩ですが、私は新人。「試合なんてめっそもない。足を引っ張るだけ」としり込む私に、「私たちも試合は初めてだから、負けてもともとやってみようよ」と先輩に背中を押され、補欠も居ないシニア3人の1チームで参加することになりました。

大会の前日が緊張しましたね。学生時代も運動部の経験なし、このトシで試合に参加なんて初体験でしたから心臓バクバク。でも当日の会場、中央体育館に入ると少し緊張がほぐれました。小学生のチームもいて何だか和やかでした。

市長の挨拶、地元の国会議員の祝辞に続いて、予選リーグが始まりました。4チームずつ4組に分かれて対戦。私たちの組にはいかにも強そうな青年会議所チーム、元気いっぱいの小学生チームもありました。ところがこの組で私たち「笑顔でボッチャチーム」は何と2勝1敗で1位通過したのです。「参加することに意義あり」のチームが決勝トーナメント進出です。

あれよあれよという間の展開、夢中だったためトーナメントの準決勝までは記憶にないのですが、決勝戦だけはよく憶えています。相手はよく一緒に練習している、最初から優勝を目指している強豪。案の定最初の1エンドから5点取られました。周りには観戦の人たちもいますし、大敗はしたくないと、熱くなりました。すると何ということか2、3、4のエンドで5点を取り返したのです。神がかりのような奇跡が起きました。同点となりタイブレーク。両チームから代表が1人ずつ出て1球を転がし、定位置に置いたジャックボールに近い方が勝ちとなります。わがチームは後攻の不利で、相手と2cmの差で惜敗。といっても嬉しい、嬉しい無欲の準優勝。そして生まれて初めての銀メダル獲得。家族に大いに自慢したものです。



第1回 こだいらボッチャ大会 ～こだッチャ杯～  
競技風景より



ボッチャ大会のトロフィーとメダル





ボッチャのボール

### 定年後ボッチャを通して地域貢献する方

私がボッチャの師と仰ぐ越田三樹夫さんという方がいます。ボッチャ大会で決勝を競ったサークルの代表で、よく一緒に練習しています。越田さんは74歳、現役時代から自転車やカメラの趣味を持って楽しんでいましたが、何だか物足りない思いをしていました。定年後、地域のことを全く知らなかったのですが、シルバー大学に入って地元仲間ができて、そこでボッチャに誘われました。最初は身障者のスポーツと思っていたところ、シンプルに見えながら手強く、頭を使い、精神が安定していないとうまくいかない奥深さがあるそうです。

私たちにチームとしての戦略を教えてくださいますが、ただ的球に近づけるのではなく、相手の球を弾いたり、ガードの球を置いたり、とその駆け引きはカーリングに通じるものがあります。仲間とのつながりも越田さんにとって大切なものです。妻の介護をしている人、ガンと闘っている人もいます。車いすでお母さんと一緒に来る青年もいます。みなさんがボッチャという共通項でつながり、スーパープレーが出ると惜しみなく褒めたえ、失敗すると「ドンマイ!」と励ましているのです。

小学校、中学校や施設でのボッチャ体験支援も毎月のように実施して、ボッチャの楽しさを広めています。社会とつながり「人に役立つことをしたい」というのが越田さんの定年後の生き方です。「これから元気で動ける高齢者は弱い高齢者をサポートしていかなきゃならないと思います。若者に任せるのは気の毒ですよ」と施設での草取りや高齢者宅の困りごとの手伝いなど、ボッチャに加えてボランティア活動は広範囲にわたっています。

ボッチャ協会には小学生から88歳の女性までが登録、いわばひ孫とひいおばあちゃんが同じ土俵（コート）で対戦するのですから、こんな愉快的なスポーツもないでしょう。ボッチャは見るのではなく、やってみるものです。機会がありましたらぜひどうぞ！



小学校の体育館でのボッチャ競技風景



### 3. 走行は計画的に

会員 鳥居 雄司

#### 今回の走行は

今回の80km 競技はいつも馬をお借りしている牧場から私1名の参加でした。参加の多い牧場なので、複数参加が多くありますが、1名は珍しいです。距離が長く、時間もかかるので、複数参加の時は先頭を交代して走ると人馬ともに負担が軽くなります。一緒に走行するなら対象になる選手を2名教えていただいて出発しました。

走行計画は時速10kmを目安にしました。走行中に自分の速度が分かると良いのですが、左右遠くまで見通せる直線の走路だったり、馬の体の幅より多少広い程度の際間で、曲がりくねった走路もあったり、ゴロタ石の川を渡るところがあったり、笹の深い藪をコース案内のリボンを頼りに急勾配を上り下りする走路もあります。それらをまとめて平均10kmで走行するのは豊富な経験を求められます。そこで一つの目安として5分で1kmを走行するコース予定を考えてます。これだと1時間(60分)で12km走れるので、走行の見当が付きやすくなります。

今回の80kmは1区間36km、2区間26km、3区間20kmの距離で構成されています。それで、1区間36kmを3時間36分で走行することにしました。出発から⑥までは平らな走路なので8名程の集団で走行しました。1区間の6割程走り、対岸の⑦に向けて川を渡ります。次の橋まで川に沿った走路です。ここは木立の中を左右に道が振られる走路です。狭い道なので素早い方向転換を求められます。乗馬の初心者だった頃は手綱で馬の頭を走路の曲がりに合わせて方向転換することを習います。しかし、道幅の狭い走路で速度を落とさずに走り抜けるには、手綱だけに頼って馬頭の向きを変え、馬体を走路に合わせるのでは時間がかかります。そこで、手綱は補助にして主に脚扶助で馬の動きを走路の曲がりに合わせてみます。これがないと走行に余分な時間を必要とします。



#### 馬の危険回避で

馬は体の大きさの割に素早い方向転換をします。草食動物の馬は襲撃に対して後脚で蹴るか逃げるかのどちらかで応じます。多くは逃げることを選びます。広い視界(正面と真後ろを除く350度)で不審なものを発見すると、いち早く離れる方向に体を向け、さらに駈歩で距離を広げます。ですから前方に不審物が現れると急停止します。これは障害競技で障害に向かっていても直前で急停止する姿で見られます。走路の右に不審なもの(木の枝、ゴムホース、縄、形が変わった石など)があると瞬時に左側へ横跳びします。この場合、馬の動きに応じられない騎乗者は落馬します。また、乗馬クラブで一列に並んで(部)練習しているときに、その場で180度回転して、後続の馬と向かい合う状態になるのを見たこともあります。

馬は木立の間を走る時に自分の馬体幅があれば通り抜けようとします。しかし、馬の幅が最も広い場所に騎乗者が両脚をあてているので、気を付けないと木の幹に脚をぶつけて骨折などの大けがをすることがあります。

そして、頻繁に左右に方向を変える木立の中で、馬はバランスを変えながら大きな体で軽快に方向転換します。騎乗者は馬のバランスの変化に従って柔らかに随伴(馬の動きに邪魔をせずについていく)をできないと馬の運動を妨げて遅くなり、馬に余分な負担もかけます。





## 急勾配の上り下り

ところで、急な勾配を上り下りするとき、騎乗者は姿勢を垂直に保っていることをご存知ですか？平らな場所を進むときは姿勢を正して真っすぐに騎乗しています。川から土手へ上がる⑧では土手の傾きに合わせ、瞬間的に40度近い坂を登ります。騎乗者はこの時にも上体を垂直に保っているため馬の首をつかめる程に近づきます。上体を垂直に保てないと人の重心が後ろに片寄って馬の運動を妨げたり、騎乗者が持ちこたえられなくて落馬したりします。反対に川に向かって降りる⑩の付近では30度程の下り勾配なので、騎乗者は登りと逆に馬の首から遠く離れて上体の垂直を保ちます。さもないと馬の前肢は過剰な重さを支えきれなくなり騎乗者もろとも転倒します。今回の中型馬は、体重400kgほどで急坂の下りで転倒すると大きな事故につながります。

## 難所を通過して

⑩を無事に通過してゴールまで比較的平坦な走路でゴールに到着しました。走行時間は2時間39分でした。1区間36kmを3時間36分の走行予定よりほぼ1時間短い時間で走れました。獣医検査も無事に通過して40分後の出発になりました。

2区間は26.3kmの距離で、急な登り下りが無い走路です。ただ1区間の速い展開についてゆき、左右のアブミに体重を均等にかけられない私の癖がでました。乗馬を始めて気づいたのですが、私は左足に荷重をかけるのが癖になっていました。エンデュランスで鞍が左へ傾き、この癖を気づきました。日常で意識してみると、信号待ちで立っているとき、ホームで電車が入るのを待つときなど左足に体重をかけていることが分かりました。乗馬では左右均等に体重をかけないと馬の動きに影響がでます。エンデュランスの獣医検査項目に歩様(馬の足の運び)検査があります。速歩で曳かれている馬の歩様を見て、足をかばうような足運びの有無を見る検査項目です。馬が私の左右不均等な荷重を補うために、負担になっていると歩様検査で指摘されたことがあります。

2区間の出発にあたって、鞍が左にズレないように腹帯を強めに締めてもらいました。エンデュランスでは、馬の運動し易さを考えて腹帯の締めは必要最小限の締め具合のようです。26kmの走路なので走行時間を2時間36分に予定して出発しました。

馬の水分補給以外は動いていましたが、1区間に比べて遅くなりました。ゴールに到着するのに2時間52分かかり、予定より16分超過しました。獣医検査は腸音、筋肉の項目でAからB評価に落ち、3区間の出発を待ちました。

## さらに動きは悪く

3区間は12時12分に出発して最終到着時刻14時40分までに20kmを走行すれば獣医検査後に完走が決まります。出発すると会場の出口付近で同じ牧場から参加している馬といひなきあって動きません。そこで下馬して出口をでるまで馬を曳いて、再騎乗したり、停止と速歩を繰り返したりしながらゴールしました。時刻は14時58分でしたので、最終到着時刻より18分超過して完走になりませんでした。



## 頑張ったのに

馬がしっかり頑張ったのに残念な結果になった要因は、1区間で過剰に速く走行して、馬の疲れを誘った。私の騎乗の力量以上に速く走行したので馬の運動を妨げた。走行中の速度を正確につかめないのが走行予定を十分に活かせなかった。これらが大きいと考えています。そして、バランスの良い騎乗ができるようにという課題が明らかになりました。





#### 4. 「バリ島 チャンディダサの日々 ③」 サブツくんの青春

“Prisoner of the charm of Bali”  
黒部 正也

十時になった。ロビーに出るとサブツがすでに待っていた。サブツはチャンディダサのホテルの運転手。小柄でやや小太りの二十五歳の青年だ。白いズボンにブルーのシャツで、こざっぱりした身なりである。朝七時にチャンディダサを出発して二時間かけてサヌールのホテルまで私を迎えに来た。

私がバリ島で民宿暮らしを始めた二年目の二〇〇一年二月のことである。当時は、チャンディダサへの道路事情も悪かった。そのため、夕刻バリに着いて、空港近くのホテルで一泊していた。

定宿に決めていたチャンディダサのロスメンは満室だったので、隣の小さなホテル、「ケラパマス」を予約した。彼はそのホテルの運転手をしている。

安全運転で、寡黙で真面目。そして日本語が驚くほど堪能だった。気に入って昨年からいつも用を頼んでいた。

薄日の射すチャンディダサの海が見えた。道路が渋滞続きでサヌールからここまで三時間もかかった。初めて海が見え、遠くにランドマークのテペコン島も姿を現した。

ホテルが用意してくれた部屋は良い部屋だったが、絵を描くには狭かった。それで、海辺に面した茅葺の二階建ての小屋に変えた。前年過ごした茅葺の小屋に似て野趣に富んでいる。

昨年も頼んだモデルニョマンの協力を得て早速クロッキーに励む。雨期のバリ島は乾期のような明るい光が無い。そこで、屋根のない半屋外のシャワー室をアトリエにして、紙に茶コンテを使って無心に描いていた。

ふと気が付くと、モデルの肩に水滴が光った。石壁の上に絡んだアイビーの葉に雨滴が落ちている、雨だ。この日のクロッキーは終了した。私

はシャワーを浴びると、テラスで昼寝をした。波の音が聞こえ、心地よい浜風に身を委ね眠ってしまった。こうして、チャンディダサの日々が始まった。

「私のアパートを見ませんか？」  
と、午後サブツに誘われた。彼のアパートはサム村の東の端にあり、海辺に近く、バナナの林に囲まれていた。二戸建ての一室を借りている。

シャワー、トイレ付きのワンルームで、部屋には小さな本棚と大きなマットが一つ置いてある。一見するとガランとした雰囲気だった。壁にはバリ・ヒンドゥ教の赤い神棚が目立った。

サブツは、湯沸かし器でお湯を沸かすと、バリコピーと呼ぶバリのコーヒーを淹れてくれた。砂糖とコーヒーの粉をカップに入れて、お湯を注ぎ、上澄みを飲む独特のコーヒーである。香りが素晴らしい。

「美味しいですな！」

と、私はお礼を言った。彼は本箱から日本語の教本を二冊出してきた。見るとどの頁にも丹念に書き込みがしてある。高校を卒業したあと、デンパサールの日本語学校に一年通った勉強の跡が如実に残っている。サブツの日本語が堪能な理由が分かった。週刊誌の漢字も読める。

「ケラパマス」の寮は一室六人の言わば雑居で勉強が出来る雰囲気ではない。

「この辺りに机を置き、パソコンを載せ、この部屋をオフィスにするのが夢です」  
と、サブツは部屋を指差しながら飛び切り明るい表情で抱負を語った。

その日の夕食は、サブツを誘ってチャンディダサ寺院の近くのサム村の道路沿いの食堂に入った。モデルを頼んだニョウマンをサブツの携帯で呼んでもらって、三人で夕食を摂った。ニョマンはサブツよりも一つ年上、既に結婚し子供もいる。二人は相性が良いらしく、いつも話している。

メニューに“イカンリチャリチャ”が載っている。私が若かった頃東京へ出張する度に、六本木のインドネシア料理店で同名の料理を食べた。マナガツオを油で揚げた甘酢あんかけをした魚料理であるが、六本木の店のソースは飛び切り美味し



く、激辛だった。その夜の味はまあまあだったが、私の青春を重ねて、満足した。

久しぶりに飲んだインドネシアのビンタンビールで少し酔った。ホテルへ帰ってテラスで寛いでいると、傍らでサブッカ妙に真剣にニョウマンに話し込んでいる。普段見たことが無い表情だ。サブッカ帰った後、ニョマンに何事かと聞いた。

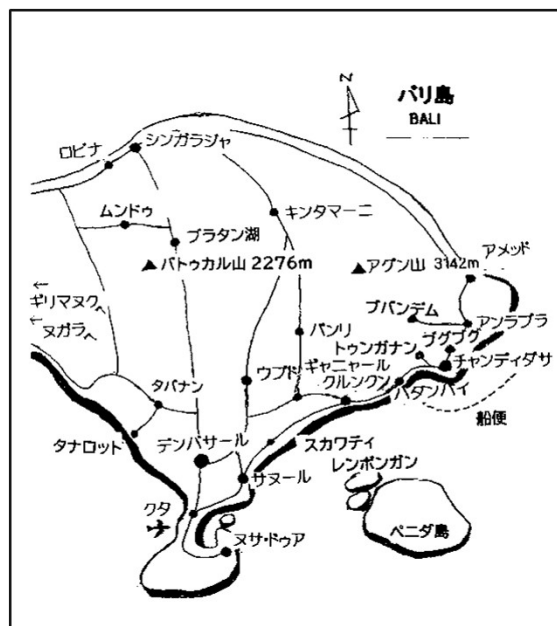
すると、ニョマンは言いにくそうな口調でゆっくり話し出した。サブッカの失恋話であった。

四日前それまで付き合っていた女性が青年と親しそうに歩いているのを見てしまった。余りのショックで、地元から逃げたくなった。翌朝バリ島北部から最西端のギリマヌクまでドライブした。それでも癒されず、更にフェリーでバリ海峡を渡った。気が付けばそこは東ジャワだったという。民宿で一夜を過ごした。翌朝、

「自分には家族がいる。友人もいる！」  
と我に返った。

話してくれたニョマンの目元に涙が滲んだ。

(追記、2009年にサブッくんは結婚して一女の父となった。)



チャンディダサの海辺



チャンディダサの民宿



## 5. 「バリ島 チャンディダサの日々 ④」 トゥングナン村の結婚式

“Prisoner of the charm of Bali”

黒部 正也

朝食を済ませてから、隣のホテルの運転手に頼んでトゥングナン村まで送ってもらった。

二〇〇三年三月六日木曜日のことである。前の年のチャンディダサの民俗暮らしで、絵のモデルを頼んだコマンに今回もモデルを頼みたいと思って出掛けた次第である。

彼はトゥングナン村の広場で、村の青年に混じって婚礼料理を作っていた。鮮やかな手付きで包丁を使い、焼け焦げた五匹の豚の毛を剃り、肉を裂いた。普段は物静かな少年のように見えたコマンであるが、豚料理をする姿は、紛れもなくバリ島先住民の末裔バリ・アガの逞しい22歳の青年の面構えになっていた。

広場には差渡し一メートル位の鉄鍋が五つ据えられ、料理の煮炊きが始まった。傍らで数人の青年が、石臼に緑色の葉を入れて長い棒で突きながら香辛料を作っている。広場に集まった村人は二百人を超している。男女が分かれて、歓声をあげながら料理に励む。村人総出の婚礼料理造りは熱気に満ちて、楽しさに溢れていた。

「婚礼儀式は毎朝四日間続きます。土曜日と日曜日は特に盛大です」

と、コマンは私に見物を勧めた。トゥングナン村はバリ・アガの人々が伝統的な風習を色濃く残しながら暮らしている村である。その村の結婚式をぜひ見ておきたいと思った。

土曜日の早朝、私は民宿のスタッフに頼んで祭礼衣装に着替えた。サファリと呼ぶ真っ白い上着、金色のサブツを腰に巻き、頭上に茶色のウドゥンと呼ぶ布帽子を被り、再びトゥングナン村へ出向いた。

私のお祭り衣装は目立っただけ。村の入口でジャカルタからやって来たテレビ局の女性アナウンサーにつかまってしまった。彼女は日本語が堪能である。

「あなた、日本人でしょう！」

と、テレビ取材の協力を求められた。私が花婿の家に入り、花婿、花嫁にお祝いを手渡し、私が花婿、花嫁の衣装について説明を求めるシーンをカメラが丹念に追った。

私の英語にインドネシア語を交えた質問に花婿がインドネシア語で詳しく答える。二人の胸元に巻いた織物は、グリーンシン（無病息災の意味）と呼ばれる世界でも珍しい経緯織り（ダブルイカット）で、バリ島でもこの村の女性でしか織られていない。複雑な模様の染色に数カ月、織りに一年かかるものさえある。この魔除けの織物は、冠婚葬祭に用いられ、買えば五百ドル以上、日本円で五万円以上の高価な布だという。

最後にアナウンサーが話をまとめるシーンを写した。ジャカルタから来たという若い青年チーフは笑顔でOKのサインを出した。

花婿はこの村のお土産屋の長男で二十九歳、やや小柄。花嫁は二十五歳で色白の大柄の女性である。胸に巻いた茶色のグリーンシンがひとときわ輝いて見えた。

その翌日の日曜日、七時にトゥングナン村に到着した。夜半から降り続いた雨も、小降りになった。広場ではこの日も村人総出の大掛かりな炊出しが始まっていた。大鍋が五つ並んで、スープ、カレー、野菜、豚肉天ぷら等を作っている。隣の広場では、煙をもうもうと立てながら、サティを焼いている。特別に路上に煉瓦の長い炉を作り、十数名の青年が一斉に団扇を使って串刺しの鶏肉を焼く情景は壮観である。

八時になった。花嫁がグリーンシンで着飾って新郎の家から出てきた。三〇数人の女性が後に続く。

村の下手の寺に詣でる儀式と言う。花嫁の行列は雨上がりの道を、水溜まりを避けながらしずしずと下って行った。

新郎は普段着で家から出てきた。訝る私に「今日は花嫁だけが着飾る日です」と、新郎は説明しながら、大鍋の焚火の具合を眺めて、割った木切れを炉にくべた。





しばらくすると、新郎の家の前が急に賑やかになった。村人が次々と新郎の家に入っていく。私は門を一步入って驚いた。庭先一面に筵を一杯に敷き詰めて、大勢の村人が連座になって食事を始めている。婚礼の祝い膳である。

「シラカン！（どうぞ！）」

と、広場にいた新郎が私を新郎の家の奥の座敷へ案内した。座敷に座らせると、私の周りに料理が次々と運ばれた。豚料理の皿が六つ並び、サティ（鶏の串焼き）、キュウリのココナッツ和えが置かれた。

近くに座った顔なじみの新郎の姉が、料理を摘んだ。私も真似て、右手の指先で豚肉を摘んでゆっくり口へ運んだ。見守っていた新郎の両親が手を叩いて喜んだ。コマンも笑っている。

調子に乗って、私は次に並んだ赤い色の豚料理を勢いよく口に入れて、飛び上った。唐辛子がたっぷり入った激辛料理だ。目を白黒させながら、私は手真似で必死に水を求めた。

台所から駆け寄った若い女性が差し出したコップの水を一気に飲み干した。もう一杯と、お代りを所望した。私を見守っていた新郎、両親や家族の笑いが一斉に弾けた。



トゥンガナン村の花嫁、花婿



村人総出の婚礼料理作り



## 6. 「川島康生(やすなる)先生を囲む会」

2022年7月3日(日)

13:30~15:30

会場:ベルウッド

取り纏め:

関西支部長 阿賀 敏雄



### 川島康生先生のご経歴等

国立循環器病センター名誉総長、大阪大学名誉教授、日本医師会医学賞、勲二等旭日重光賞、紫綬褒章、大阪文化賞を受賞、文化功労者顕彰

司会: 阿賀 敏雄

#### 1. 本会の趣旨について 伊丹 淳一

早いもので川島先生に「如何に人生100年時代を迎えるか」というご講演を頂いてから、2年と8ヶ月が経ちました。考えてみますとその後、ずっとコロナで自粛生活を余儀なくされてきた訳ですが、本日幸いにしてこのように元気に会することが出来たことを嬉しく思います。

川島先生には何かとご多用の中、ご足労頂き厚く御礼申し上げます。

本日、この会場の平均年齢を考えますと、やはり人生100年時代に感心が向いて、余生の過ごし方の参考になることはないかとの思い

を抱いて、参加されていらっしゃる方も多いことと思います。

日本では100歳以上の人を百寿者という表現をされていますが、センテナリアンという言い方もあって、110歳以上の人をスーパーセンテナリアンと言われていますが、いま日本にはこのセンテナリアンが86,510人いらっしゃるそうです。驚くことは、今から約60年前の1963年(昭和38年)では僅か153人しかおられませんでしたから、日本はこの60年足らずで驚異的な長寿国になっているわけです。そして110歳以上のスーパーセンテナリアンは、センテナリアン1000人に一人の割合と言われているから、いま日本には110歳以上の人が90人近くもいらっしゃると思います。

因みに世界では、人類史上これまでの最高齢者はフランスのジャンヌカルマンさんという女性の方で、122歳166日生きられた記録があります。一方男性の世界記録は、日本の木村次郎右衛門さんの116歳54日だそうです。

私事で恐縮ですが、私の父が満106歳で亡くなったことは、これまでにお話しさせて頂いたと思いますが、父の母親である私の祖母は父が71歳の時に満101歳で旅立っています。その時私は35歳でしたが、若いころは電気もなく、阪急電車もない時代で、現在の豊中市豊南町から心斎橋まで歩いて買い物に行ったという話も記憶にあります。この祖母は1875年(明治8年)生まれで、亡くなった1976年(昭和56年)の日本には、100歳以上のセンテナリアンは3,500人程度でしたから36,000人に1人という確率の中の一人ということで、凄い長生きした人でありまして、その息子である父が106歳、孫の私が百・・・スーパーセンテナリアンを達成したいと願っているところであります。

まあ、ここまでは皆さんには他人の話でありまして、これから余生を送る我々が元気に長生きするにはどうすれば良いのかということになる訳ですが、川島先生にご講演いただいた「如何に人生100年時代を迎えるか」の中で、お話し頂いたことを思い起こしてみますと、





- 人生は楽しくなくてははいけない。
- お金は条件の一つでしかない。健康であることはお金以上に大切な条件である。
- 人生は将来しかない。今が一番若い時である。
- そして「自分はもう歳だから」というのは禁句にしよう。
- 「百居れば 浮世変われど吾が心  
月のまんまる雪の白妙」と詠まれました。
- ・・・人生百年時代になっても、まん丸い、  
真っ白な心を持っていれば、いつまでも  
楽しい人生を生きられる、と。

長生きの秘訣に関してはいろんな説がありますが、一つの条件を満たすことで長生きできるということではなくて、いくつかの有効とされている条件を一つでも多く満たすことが肝要であると思っています。お配りした「百寿者について」を参考にして頂ければと思います。

誰でも加齢とともに老化するわけですが、そのスピードに個人差があります。例えば発育盛りの若い時にスポーツで体を鍛えた人とそうではない人、タバコを吸う人と吸わない人、食事が偏っている人とバランスよく気を付けている人、適度の運動をしている人としていない人、悩み事をくよくよいつまでも引きずる人と割り切ってすぐ切り替えられる人等々、私はよく分かりませんが、生理学的な男女の違いも感じています。それらの中でも最も影響するのは、私は「ストレス」であると思っています。

お祈りがストレスや諸問題を和らげてくれるとする説もあるようですが、随分以前に私の姉に「女性は生理があり、出産があり、育児や炊事・洗濯、掃除機もない昔は風呂焚きから近所付き合いまでありながら、百寿者の88%は女性が占めているのは何故と思うか」と質問したことがありました。

社会人の経験もない姉が、一呼吸おいて「それはストレスと違う?」と答えました。主婦は

時間的には長時間、体を使う仕事が多いけれど単純作業というか、ストレスが溜まるような仕事をしている訳ではなく、何かと常に体を動かしていることが良いのでは・・・と。これ結構当たっていると思っています。

地域別で長寿を人口比で見ますと、100歳以上の高齢者が最も多いのは「島根県」で2位が高知県、3位は鹿児島県、4位鳥取県、5位山口県となっていますが、その要因はストレスが少ない生活様式にあるとも言われています。

イライラせずにのんびりと、好きなことだけして暮らす。美味しいものを食べて美味しいと感じたら、それは幸せなことだと思うことも幸福感の大事な一つであると思うこの頃であります。

本日の集いが来てよかったと思える有意義な時間となりますよう願って、開会のご挨拶に加え本会の趣旨についてお汲み取り頂ければ幸いです。

**『如何に人生100年時代を迎えるか』**  
**講師 川島康生(かわしまやすなる)先生**

国立循環器病研究センター名誉総長  
 大阪大学名誉教授  
 日本医師会医学賞  
 勲二等旭日重光賞  
 大阪文化賞  
 文化功労者顕彰



**日時 2019年11月21日(木)**

会場 豊中市立文化芸術センター 大ホール  
 豊中市菅原東町3-7-2 tel 06-6864-3901  
 開場 14:00 開演 14:30 終了 16:00

チケット(2,000円)のお求めは

ベルウッド	06 -6840-0606
国際交流の会とよなか	06 -6840-1014
阿賀 敏雄	090-1896-4575
越智 克司	090-6053-0029
阪瀬 純	090-3723-0961



主催 NPO法人リタイアメント情報センター  
 理事長 竹川忠徳 顧問 中野寛成 関西支部長 阿賀敏雄  
 後援 豊隆会

design kenichi.ishio

**川島康生先生 2019年11月21日 講演会チラシ**





## 2. 川島康生先生に捧げる詩 ヤスコWild

### 川島康生先生に捧げる詩

ヤスコWild

ドクター川島  
あなたは優しい方ですね  
青春時代のある時に、あなたは大きな夢を持ちました。  
病に苦しむ人々を助けることはできないか？  
神からもらった能力を、その人々に生かすため、  
あなたは学び、働いた。  
学びの道はどこまでも 遠く険しいものですが、  
それでもあなたは頑張った。  
時には体に無理を重ね、自分を厳しく追い込んで  
時には家族をも犠牲にし  
あなたは学び、働き、患者さんたちを救った。  
あなたのお陰で 大勢の  
病に苦しむ人々が 再び命を取り戻し  
生きることの喜びを 感じるようになりました。  
あなたの後に残っている、若い医師を育てつつ  
あなたは今日も歩きます。  
あなたに救いを求めている  
多くの病める人のため。  
あなたに今こそ捧げたい。  
感謝とお礼の心を捧げたい  
たくさんのお患者に成り代わり  
ありがとうございます  
これからもよろしく願いいたします。

令和4年7月3日

## 3. メッセージ代読

### ・住田健二様(元原子力安全委員会委員長代理・ 大阪大学名誉教授)のメッセージ (2015/3/12)の代読

「彼とは旧制豊中中学での同級生で、さらに学部は異なるが、大阪大学で共に学んだ間柄である。私たちの頃は阪大同級生に旧制豊中中学出身者が数十人はいて、専門が分かれていても、たいいていの講義なら、かならずノートを貸し借りできるという仲間がいた。

それが、気が付いてみたら東大・京大の名誉教授も一人ずついるが、阪大名誉教授の肩書を持つ仲間は彼と私だけになっていた。学部は異なっても、同じ学内で何かと助け合える存在であったが、臨床医であった彼にはお世話になるばかりで、お役に立つことは稀だった。今でも、中学の同窓会では彼の周囲にはその機会に教えを請いたいものが集まってくるが、気さくにそうした場での相手をしている彼の姿は昔と変わらない。

### ・越智常雄様(読売テレビ放送株式会社 取締役会長)のメッセージ (2015/3/12)の代読

豊陵会豊高1期生の川島先生は、私にとりましては、神様のような大先輩であります。

川島先生は「川島手術」といわれる小児心疾患に対する数多くの新しい手術を世界に先駆けて発表されるなど、日本一の心臓外科医であります。

2007年には、文化功労者として顕彰されておられます。他方、私の勤務先であります読売テレビでは、テレビ局の最高機関であります番組審議会委員を永年お務めいただき、放送文化向上のためのご指導もいただいています。

また、趣味のゴルフの腕前もお見事で、しかも84歳にして今も車を運転して来場されます。これからも益々のご活躍を祈念しています。



#### 4. 自己紹介

参加者 26 名様の大半の皆様が川島康生先生に普段お付き合いの無い方々ですので自己紹介に時間が割かれました。

#### 5. 平野裕一様の質問には川島康生様からの適切なアドバイスもあり、有意義な囲む会となりました。

#### 6. 花束贈呈

#### 7. 記念写真



前列左から  
 西島靖之様、川島康生様、新家庄平様

後列左から  
 辻本純孝様、池口美智子様、岩本美祢子様、  
 齋藤悦子様、羽田睦美様、大澤泰様、  
 越智常雄様、阪本節子様



前列左から  
 中野寛成様、島野高志様、川島康生様、  
 新家庄平様

2 列目左から  
 石尾賢一様、黒部洋子様、廣瀬純様、  
 ヤスコ Wild 様、水田光世様、  
 伊丹淑子様、阿賀敏雄

3 列目左から  
 神保雅明様、平野裕一様、長岡壽男様、  
 黒部正也様、西澤信善様、栗本征彦様、  
 伊丹淳一様

なお川島康生先生は 1940 年 8 月 23 日生まれ  
 91 歳のご高齢ですので、ご自宅からベルウッド  
 までの送迎は伊丹淳一様にお願い致しました。

次回は「木津谷文吾様を囲む会」の予定



## 7. 「ジミー、日本人は非常に能率の良い人種だ！」とフレッドが叫んだ。

会員 赤神 潔

私と白人達、ロイ、レイ、ウェーンの4人でミンクに餌をやることになった。初めて、米国オーティオ社製の3輪ミンク給餌機に乗った。電動式で、餌500キロ位入る長方形のステンレス製タブ(桶)の下に、1個の直流モーターで稼働する、餌を押し出す長いオーガーに餌用オーティオ・ポンプ。沢山のバッテリー、2個の直流モーターに連動した2個の後輪。そして床から垂直に伸びる前方のハンドル・カラムの下に1個の前輪がある。運転席は、丸くて水平のハンドルの直ぐ後ろ、餌用のタブの前にある。ハンドル・カラムの右横の床に1個の特殊なピボット出来る走行ペダルがある。ペダルの踏み方次第で加速前進、停止、加速後退が自由に出来る。運転席に座り、右足でペダルを踏み、左手でハンドルを持ちながら、それに付いているマイクロ・スイッチを左親指で押せば、押す時間に比例してタブの下のオーガーとオーティオ・ポンプが回り、右手で持った直径4センチ程の強化ホースの先にある、真鍮製のノズルから必要な量の練り餌が出るようになっている。

ミンク小屋は、通常、前後の入口、出口の雨よけ合板以外、壁がなく、屋根と多くの柱のみのシンプルな建物で、幅約4メートル、長さ40メートルまたはそれ以上ある。細長く出来ていて、真ん中に通路があり、両側に1列又は2列ずつ、ミンクの籠(約18インチx18インチx16インチ又は、18インチx18インチx18インチ)が横に続けて並んだものが柱に釘で固定されている。

私達はその小屋の1方から給餌機に乗って入り、左手で小さなハンドルを握って運転しながら、並んでいる各々のミンクの籠の1インチx1インチの編み目の上に、柔らかく練った、丁度ハンバーグのような生餌を、右手で握ったホースの先のノズルで1つずつ必要量を加減(カゴの

中のミンクの雄、雌、頭数で其々異なる)しながら切り取り、速やかに、押し付けないように、丸くそっと置いて行くのである。ミンクはその編み目の下から、舌を使ってその餌をなめたり、噛み付いて引っ張ったりして、少しずつ、通常24時間でその餌を食べるのである。



小屋の片側の給餌が終わると、小屋の外でユーターンして、もう1方の側をやる。誰がどこをやるという持ち場はなく、早くやり終わった者が次の小屋をやる。1日、全部で約15トン余りの餌で、給餌機にして約30杯である。

給餌機のなかった頃は、50人程のインディオ(インディアンとメキシカンの混血)がそれぞれ22キロほどの餌の入ったブリキ製のバケツを1方の手で抱えて、他方の素手で餌をすくいながらやり、バケツが空になると飼料調理場迄歩いて戻らねばならず、1人がおよそ10杯から12杯の餌を毎日黙々と歩いてやったそうだ。

給餌機にだんだん慣れてくると、私はたちまち全ミンク飼育場の半分位を1人でやってしまうようになった。すると他の3人は仕事が無くなり困って、自分の「給餌機のタイヤ圧がおかしい」、「チェーンが緩んだ」、「グリースが足りない」、「ミンクが逃げている」、「水飲みが壊れている」と、色々仕事を自分で作り出して頑張った。しかし、さすがにラルフもフレッドも、能率が良い奴は誰なのかを直ぐに見抜いてしまった。

給餌機のポンプのスイッチは通常それぞれの





籠の横でそのつど押した。籠にはそれぞれ雄雌が入っており、餌の必要量が異なっていたため、籠の中のミンクを瞬時に観察し、餌をや、次に籠の幅、18インチ前に進んでまた止まり、次の籠の中のミンクを見、スイッチを押、餌をやるとというのが普通だった。

しかし私は、給餌機に慣れると、直ちに、給餌機のポンプのスイッチを押したまま、途切れずにホースからどんどん出て来る餌を、ホースのノズルの先と籠の上で素早く切りとりながら、ホースから餌がこぼれないうちに素早く、次の籠の上まで次々と持って行った。その様子を、ラルフとフレッドはビックリして、黙って私の後ろを無音のゴルフ・カートに乗り、追いながら観察していた。餌用のポンプがフル回転しているので、餌の量のコントロールは給餌機の走るスピードでうまく微妙に加減すれば良い。私の給餌機は止まることなく、ポンプの能力を限界まで使って、神風のように小屋を微妙に走り抜けていたのだ。

勿論、瞬時に籠の中のミンクの状態を判断して、餌の量を的確に加減せねばならず、私の目と頭脳と手足は、フル・スピードで働いていた。毎日、自分の能力の極限に挑み、それがたのしくてたまらなかった。どれだけの時間、彼らが私を観察していたか分からないが、フレッドが私の欠点を見つけられないまま、頭を掻きかき、笑いながら、1言「ジミー。早いのも良いが、機械の寿命も大切だよ」と言った。すかさず、「毎日1万回か2万回オン・オフを繰り返す方がスイッチにもモーターにもソレノイドにもフレームにもチェーンにも悪いように思うが?」と予め用意して有った英語で、意見を言った。

9月の中頃から、ニュージャージーの日は顕著に短くなり、農場の回りの景色が急変し、気温がどんどん下がり始めて霜が降り始めた。気温が零下となると、殆どが落葉樹の立ち木も芝生も園場も、全ての緑色が、1夜にして茶褐色に変わってしまった。日本の温暖地区にいた我々には、夏から冬へ急転直下する驚きの経験だった。

11月25日、毛皮収穫のシーズンに入り、1日目は、両手に皮のミトンをつけ、籠の蓋を開け、暴れ回るミンクをつかみ、腕力で、鉄製の重いネック・ブレーカーを使って、ミンクの殺し方を体格の良いウェーンから教わった。零下10度～15度の屋外同様のミンク小屋で、夜明け前から日没後の緊張の続く10時間で、非常に重労働であった。ミンクにはスカンクのように肛門のそばに臭嚢があり、1日中その強烈な悪臭を身体中に浴びることになった。ミンクが籠の上で冷たくなり、死後硬直をおこしてから、順次1輪車に乗せ、飼料調理場まで運び、フレッドと彼の奥さんと、レイがスキニング(剥皮作業)をしている2階へ、リフトを使って送り込んだ。

私は日本でミンク・ビジネスを知るまでに、牧場を営む富美子の伯父さんのところで勧められて、鶏を1羽何とか殺したことがあったが、それまで、都会育ちの赤神家で1度も経験がなかったので、その晩、自分で殺した鶏が食卓に出て、食べられなかったことがある。その時「鶏を1羽ばかり殺して、青くなっている男が、日本の士官学校に行って人殺しの方法を習ったとは呆れたものだ。そんな教育で本当に戦争が始まったら、役に立つのだろうか」といわれた事があった。ミンクの収穫時期如きで、音を上げて、日本まで帰られない。

次の日、まだ薄暗い早朝7時、何時ものようにミンク飼育場正門前のヘルパーの集合地点まで行くと、皆にその日の仕事の指図の終わったフレッドが、「今日からジミーは私と共にスキニング(剥皮)・ルームで剥皮作業をやれ」と、にこにこして言った。どうも何か問題があって、レイと私が入り替わった模様で、飼料調理場の2階の暖房の利いた屋内の作業になった。ミンクは死後硬直で薪のように細長く固まった状態で、ウェーンが1人で階下からリフトを使って送って来た。

私とフレッドが、それぞれの剥皮テーブルを挟んで、向かい合って座る。剥皮テーブルの中央手前の端、我々の前には足で作動する2個の強力なクランプが固定されている。それでミンクの両方の後ろ足の裏を上にして爪先を挟み、ミ



シッポをぶら下げ、シッポを左手で手前に引っぱり、シッポの中央、肛門からおよそ1.5センチメートルの1点から肛門の横の臭嚢をさけ、オーピニング・ナイフで左右足太腿中央、左右足裏中央目掛けて、夫々真っ直ぐ皮に切れ目を入れる。最後に肛門、臭嚢部分を屠体に残すように、肛門の直ぐ横の腹側の皮を切る。皮と筋肉組織の間にある、比較的柔らかで、真っ白い脂肪部分に右親指を突っ込んで、皮を屠体から部分的に剥ぎ、V型をした鉄製のシッポ抜きを使って、シッポの毛皮の中身を腕力でしごいて抜き、両足指の骨をハサミで切る。そして両足先を毛皮側に残し、毛皮を丸まま、インサイド・アウトに筒のごとく剥くのである。手はそのまま剥き切り、耳、目、鼻の順序に皮を傷つけないように、よく切れるナイフを硬い繊維組織に軽く当て、毛皮全体を腕力で屠体から剥ぎ取るのである。血液は不思議に1滴も出て来無い。

(大抵の北米人男女は日本人とは違い、肉食で、日頃から、動物の剥皮、解体、冷凍、保存作業は日常茶飯事のようなものである。家で飼っているウサギや羊、牛などを見て、「これが美味しそうだ!」という事があるが、日本人が魚屋や寿司店の生簀の中の魚を選ぶのとあまり変わりが無い様に思えた。)

(ちょっと余計な話だが、後程、ハリウッドの実話に基づいた映画The Great Debaters 2007で見たことだが、1935年頃、白人が黒人を捕まえ、立木から逆さに吊るして生きたままの黒人の皮を剥いで、興じた事があったそうだ。)

最初は、全くフレッドの早さに追い付けない。フレッドによると、「普段、オフィスや土産物店や動物園やレストランでぶらぶらしているスペース男女1族は、年に1度、この時ばかりは自分たちが主になって、死にものぐるいで働く」そうである。私はここに来て初めて、フレッドから正確な、剥皮作業の手解きを受けた。彼は年期が入っていて、剥皮の技と、出来合いの良さ(毛皮を油で汚さ無い)とスピードには相当自信があるようだった。

秋から冬にかけて日照時間が少なくなる。毎日、暗いうちに仕事が始まり、朝から夕方まで10時間完全燃焼し、暗くなってから仕事が終わる、ふらふらになって家に帰った。家では、家族が退屈しきって私を待っていた。テレビの漫画、ロード・ランナーも、バックス・バニーも、セサミ・ストリートも、英語が分からない私の家族には退屈で慢出来なかったに違いない。無理もないことだが、それから家族前って、「どこかへ連れて行って!」と、せがんでくる。毎日のように、それから家族を連れて外出し、家族との大切な1日が始まった。

私の剥皮技術はだんだん巧くなり早くなって来たが、右親指の外側の皮膚と爪の先が極端に磨り減り、指の先の形が徐々に変形して来て、ついに血が出だした。夜、家に帰ってから、富美子と子供達を連れて近くのドラッグ・ストアを2、3回り、ゴム製の指サックを探したが、どこで聞いても探せなかった。結局、革の手袋を買って、親指の部分を切り取り、それに木綿の紐を付けて、特製の革の親指サックを富美子が作ってくれた。当時、軍手も探したが、日本のように手袋を作業の際使う習慣がなかったようだ。その上、布製の手袋はミンクの脂肪

(油)を吸う。私達はそれがミンクの毛に再び付くことを極端に嫌った。手の汚れは、その都度乾燥した細かいソーダスト(鋸屑)できれいに出来た。およそ4万頭のミンクをフレッドと2人で剥皮した。多分、私が2万5千位、フレッドが1万5千位したと思う。

指や掌の全ての筋肉を酷使したため、ひどくむくんで腫れ上がって痛んだ。両方の掌の親指に続くおおきな筋肉(拇指球)がひどくじんじん痺れていた。勿論、体全体が疲れていたもので、じっくり観察(自覚)出来なかったが、目を除く体全体の筋肉が披露困ばいの域をこえていた。

クリスマス休暇になると、長男のエリックが家業を手伝うために、途中仮眠をしながらワイオミング大学からおよそ2千マイルを、自慢のファイアーバードで、1日散に帰って来た。エリックが今どの辺りを走っているかを、家族が時折フレッドに報告に来た。それをいちいちフレ



ッドが私に、嬉しそうに説明し直した。エリックは帰って来るなり、砂糖だらけのドーナツを口1杯に頬張りながら、白いはちまきをして、混血のウェーン・カシモアを助手に使い、剥皮作業をしている私達の横でフレッシュング(油取り)を始めた。多分エリックは、妹達やエリノアから私と言う変な日本人の脅威的な働きぶりを、既に、電話で聞かされていたのだろう。スペース家の長男として、その頑張りぶりを私に見せたかったのだと思う。妹たちや家族が回りに集まって来ても、エリックは手を休めようとせず、大学の話や帰途の話に花が咲いていた。そのうちに、彼の手伝いのウェーンがエリックの早さに追い付けず、体重250/ポンド(約114kg)もある、33歳の既婚で子持ちのウェーンがベソをかいて、鼻声で悲鳴を上げた。エリックはそれでも容赦せず、時々、奴隷使いの様にウェーンを大声で乱暴に叱りつけると、目を大きく見開きながら、うれしそうに私を振り向きウインクした。エリックは手や体がフレッシュングマシンの振動で痛み出すと、私の忠告を無視して、アスピリンを口に頬張ってカブ飲みした。(後ほど、ロリーによると、アスピリンを口に頬張る仕草は彼の得意なトリックだったそうだ。) 私はその時初めて、筋肉痛にもアスピリンが良く効く事を知った。其れまで、アスピリンは風邪の時呑む沈頭痛解熱剤と思っていたのだ。

原則として、Efficiency(能率) =  $A \times \text{Quality(質)} \times \text{Quantity(量)} \times 1 / \text{Time(時間)}$  と言う式がなり立つ。剥皮作業の場合、 $\text{Quantity(量)} = 1 / A \times \text{Efficiency(能率)} \times \text{Time(時間)} \times 1 / \text{Quality(質)}$  である。もし、フレッドが量を追求するなら、能率と時間を変えずに質はどの位おとせるのかということをフレッドと2人で真面目に検討した。話に熱が入っても、我々の体と手は、精密機械のように、ぎりぎりのスピードを保って稼働していた。体中の筋肉が、痛くて苦しかったが、自分の意識(視点)の1部が、部屋の天井の片隅、フレッドの背後の頭上辺りに遊離して、我々2人のバトルを他人事のように観戦し始める。私に追い付こうと慌て過ぎて、失敗が続出して必死にあがくフレッドを見て、私は悦に入っていたため楽しかった。

そのうち、私の剥皮のスピードが速くなって、大差が付いて恥ずかしくなると、何だかんだと言い訳を言って、突然、「ジミー。日本人は非常に能率の良い人種だ!」と叫んで席を立ち、「お前が1人おれば心配ない。私は安心してオフィスの仕事ができる」と言い、苦が笑いしてウインクすると、どこかへ行って帰って来なくなった。

フレッドは「日本人は」と一般論として言ったが、私はその時、自分が防衛大学校にいた時のあることを思い出していた。

朝、起床ラッパで起こされてベッド上で奮闘する。枕、5枚の濃緑の毛布と2枚の白いシーツを素早くきちんとたたみ、ベッドの上窓側に角を揃えて整然と整頓する。上段のベッドから飛び降りながら、色あせたカーキ色の作業ズボンを履いて、バンドを締める。白のTシャツを脱ぎ捨て、帽子をかぶり、白い手ぬぐいを持って、ズックを履き、廊下に飛び出る。3階から1階まで、階段をおおよそ11歩で1気に飛び下りる。舎前に飛び出し、上半身を乾布摩擦しながら号令調整を始める。3階の1室の上段のベッドに寝ている私が、1階に寝ている奴らより、舎前が出るのが早かった。

ある時、起床ラッパの前に変な物音で目が覚めると、隣の部屋から4人の1年生がもう起きていて、部屋から飛び出す準備をしている様子だ。ドアの前で4人が先を争って、くすくす笑いを押し殺している気配を感じた。その時、起床ラッパが鳴った。私は何時ものように飛び起きて、何時ものように飛びだして、そのときも、1番に舎前へ出たのは私だった。隣の4人の1年生達は階段でもたもたしていて、私が階段を1気に飛び下りて行くと、踊り場の端の方で頭を手で抱えて小さくなっている者、中には階段の途中で、飛び下りて来る私を避けて、身体をよじり、横目で気遣っている者、自分の靴を拾って俯いてうろうろしている者、隅で片足を上げ、靴を履き直している者もいた。私の後に、何時も、(第5大隊)400人の1~4学年の学生と、1人の当直教官が先を争って出て来た。勿論、他の4個大隊の寄宿舍にいた1600人の学生





のことは分らないが、ひょっとしたら、私が全学生、2000人の中で1番早かったかも知れない？これが毎日延々と続いた。私だけが特に早く出ようとしている訳ではなく、大部分の学生が真面目に先を争っていたのだ。何でもないつまらないことであっても、私は真剣に取り組んで、何とか工夫して、人より早くやり続けることが上手いようである。しかも、頑張って、それを長く続けねばならぬ。私は180センチの長身で体重75キロだった。決して小さくて小回りの利くタイプではなかった。

剥皮作業がクリスマス前に終わると、スキニング(剥皮)・ルームの剥皮テーブルの横でエリックから油取りを教わった。剥皮の終わった毛皮は一度冷凍されて、前日、剥皮ルームのテーブルの上に持ち込まれて解凍されていた。その横で、私の油取り機とエリックの油取り機を2~3メートルの間隔を空けて向かい合わせ、その間で2人のヘヴィー級のウェーン達が、私達の機械のポールの上の毛皮を入れ替えた。

その1人は、インディアンと白人の混血のウェーン・カシモア。エリックの助手でエリックと向き合う。馬鹿力の持ち主で、凡そ120kgの体重があり、何時も言葉の間に、「サノバピッチ」、「ピッチイズ」又は、「ファック」などと言った汚いののしり言葉を挟むのが癖で、普段は毎日飼料調理場の中で15トンの餌を1人で作り、次の日の餌の材料を1人で冷凍庫から出していた。

もう1人のウェーンは、白人で名字は忘れたが、私の助手で私と向き合う。これも優に体重120kgはあり、静かで大人しく臆病な男で、普段は我々とミンク飼育場で働いていた。

油取り機には細長い長さ1メートル20センチ程の、円錐形のプラスチックのポールが、それに向かって立っている私達の丁度腰のあたりに2本水平にある。私達は左手で手前のポールの太い方の端をつかみ、少しずつポールを回しながら、そのポールの上に裏返しに差し込んだ毛皮の脂を、右手で押さえ方を注意しながら頭から足の方へとインペラ(回転する刃)を動かして、

脂肪を削り取るのである。インペラは2本のポールの下にあるポールに平行したレールの上の台にピボット仕掛けで固定されている重いモーターに直結している。インペラの周りには油のサクシジョンカップとホースがついている。そのホースは屋外の強力なヴァキューム・マシーンに繋がれている。私達はその重いモーターとインペラとホースを載せた台に続くハンドルを左右に、細心の注意を払いながら、腕力を使って猛烈に動かすのである。



フレッシングマシン (油取り機)

私達に向かい合っている2人のウェーン達は、もう1方の円錐形のポールの上の、すでに脂を取り終わった毛皮を外し、そのポールに付いた余分な油を乾いたおがくすで拭き取る。そして新しい毛皮を、脂の付いた方を表にして速やかに差し入れ替え、毛皮の目の穴を私達から見てポールの右側の細い方の小さなピンに引っかけ毛皮の頭の位置を固定し、スプリング仕掛けの3個のクランプで毛皮の2本の後ろ足とシッポを我々から見てポールの左側の太い方へ引っ張るようにすればよいのである。

1分間に6千回転もするインペラに続くハンドルを扱っている私とエリックは、ピリピリ張りつめた繊細な感覚と、比較的高度な技術と持久力が必要だった。回転するインペラを毛皮に軽く押し付けて、1旦、脂肪に噛み込んだインペラを、毛皮に対して1定の圧力を保ちながら、1定のスピードで右から左へと引っ張らなくてはならない。毛皮を押さえ過ぎるか、うっかり同じ場所を長く削ってしまうと、瞬時に熱が異常に



発生したり、深く削り過ぎたりして、毛の根を傷つけて毛が抜けることになる。また、皮には当然、丈夫なものとそうでないものがあり、上質の毛皮は通常、皮が薄くて柔らかい。うっかり油取りを始めると、最初のストロークの初めで、その世界に1枚しかないような大切な毛皮でも、インペラに巻き込まれて粉々にちぎれてしまう。2台の機械の2、3メートル程の間で毛皮を入れ替えている2人は、私達が脂肪を削っている間に間にあうように、ただ素早く、しゃにむに毛皮を取り替えれば良いのである。

私がだんだん職人技を習得して、エリックを追い上げるようになった。余り早く削ろうとすると脂肪は堅くて腕に應える。1分間に6千回転は1秒で100回転だ。1ストロークを何回転で削り、1枚を巧く最小ストロークで削り終わるかが勝負だ。勿論、インペラを毛皮に押さえつける力の調整も大切だ。少しでも脂肪を取り損なうとその分ストロークが多くなる。熱が出れば脂肪は解け始める。その脂肪の解けはじめた量と、ストロークの容易さの感知の具合に、「僅かな技の領域」の存在を発見した。何分の1秒かの自分の的確な反応が技となり、それが失敗と成功の分かれ目になる。失敗は絶対ゆるされない。その緊張が1日10時間、延々と続く訳だ。

エリックが負けまいと、鮮やかに、より素早く仕上げ、それを追う私が神風の如く息を止めて、仕上げてしまうと、エリックが焦ってウェー・カシモアに突っかかる。「お前が遅いから、俺はジミーに負けるじゃないか」2人のヒグマのような巨人のウェー達、エリックと私の緊張と気迫の無言の熱気のプレッシャーに耐えかねて、おろおろして、ベソをかき始めた。

私もエリックに習い、苦痛を和らげるためにアスピリンを飲み始めた。勿論、私は1日の摂取量は守って飲んだ。剥皮作業のせいで、両手の指の筋肉がジンジンし、特に親指の付け根の筋肉(拇指球)がすごく痺れていた。その上に、油取り機のゴム製インペラには10枚程の刃がある。1分間に6000回転が10倍の細かい振動となって、手に響いて来る。インペラを押さえつける毛皮を裏から支えるプラスチック製のポール

に弾力性があるので、その振動が増幅されて手に響いて来る。体中が痛くて夜眠れず、富美子が剥皮作業の始まった日の晩から、既に1ヶ月半程、寝ずに私の手を揉み続けてくれていた。サランラップやアルミニウム・フォイルで私の両手を包み、その上に手袋をしたり、しっぶしたりした。私が寝付くまでベッド・サイドで、ぬるま湯に私の両手を浸けたり、揉んだり、毎晩、大変だった。

ついにエリックにも勝って、私の方が巧く、早くなった。誰にも今まで負けたことのないエリックがくやしがって、全く狂ったように暴れまわり、彼の後ろの壁の腰板を悔し紛れに蹴り上げて潰し、野獣のような「Wー?Fー?!」大声を上げた。子供の頃から20歳の現在まで、米国1、つまり世界1のスペース農場の長男として、鍛えに鍛えたはずのエリックが、日本から来て、その年初めて油取りを教わった30歳のジミーに負けたのだ。ラルフに負けず嫌いに育てられたプライドが傷付いて、彼もどこかへ行ってしまって、帰って来なくなった。それでも、油取り作業が私1人で、終わりに近付いた方には、毎日ウインクしながらドーナツを1つ持って来て、私の機嫌を取りに来た。

油取り作業が終わると、今度は隣にある乾燥部屋でスペース家の家族7人に混じって、ボーディング(乾燥板に毛皮を引き延ばして、ピンで張る)を手伝った。ある日、ラルフが既に乾いた毛皮を選別している手を止めて、1つの大きな毛皮の束を私の働いているベンチの上に持ち出し、「これはもしかすると、今年、ニューヨークのハドソンベイ・オークションでトップ(世界1)になるかも知れない。お前は思うか」と私に声をかけた。私は、「今までにこのような素晴らしいミンク毛皮を見たことがない」と言うと、「2、3日後に、生きた種ミンクを選別するから良く見ておけ。沢山習うことがある。人には余り見せないことだ」とウインクしながら、意味ありげで嬉しそうだった。

次の月曜日、朝7時にファームに出勤すると、地元の警官とFBIが来ていて、様子が変わった。どうも乾燥した毛皮が全部ごっそり盗まれたら



しい。飼料調理場の2階の剥皮作業室の隣の乾燥室の奥に、トラックに1台分程、箱詰めされて、ニューヨークのブローカーとオークション会社にいつでも出荷出来るようになっていた。1年間の苦労と投資の産物が全部きれいに週末に消えてしまったのだ。

スペース家は、よそとは違い珍しく、銀行から運転資金を借りずに、自己資金で運営していた。真新しいセキュリティー・システムに相当お金をかけ、毛皮の盗難保険は掛けていなかった。高いワイヤ・フェンスやバンプ・ワイヤで物々しく厳重だった筈なのに、跡形も手かかりもなかった。完全犯罪だった。

「シンジケートの仕業に違いない」とラルフが言った。未だに、この毛皮の行方は不明である。「たぶん外国に売り飛ばされたのだ」と言う噂だった。

スペース家に来て1番困ったことは、日本で食べていたような粒の短く粘り気のある米と醤油が近くで買えないことだった。週末に、往復2時間から3時間のマンハッタンの日本食品店まで行かなければならなかった。肉は全てが、塊か分厚いステーキかひき肉で、日本で売られている薄くスライスした肉は全く売っていない。日本で売られている野菜がほとんどなく、唯一あった青ネギと白菜は、上半分の柔らかい部分が切り取られていて、どうも納得がいかない。魚類は、殆ど全く食べないようで、近くの立派なスーパーをあちこち探すが、少量有っても、表面が乾き始めていて、古くて、臭くて、柔らかくて、我々には食べた物ではなく、諦めてしまった。

種ミンク（基礎ミンク）の選別の日、レストラン・スタッフ、メカニック、メンテナンス・スタッフ約10数人を除いて農場にいた10人ばかりのヘルパーと、スペース1族7人がミンク飼育場に集まった。ラルフの横にテーブルとして使うために、年期の入った広くて長い数枚の板（2x12）と木製の馬を用意し、その上に基準の色となるオス・ミンクを入れるための移送用の籠を並べた。ラルフとエリノアが白衣を着て小

屋の出口の外に立ち、フレッドとエリックが小屋の中。私達ヘルパーは全員、皮製のミトンを手にはめ、フレッドとエリックが扉を開けた籠の中の逃げ回るミンクの尻尾を右手で1匹捕まえ、そのミンクの名札を左手に持って足早に小屋の外に出て、名札をエリノアに渡し、左手でミンクの頭と前足を鷲掴みし、右手でシッポと後ろ足をひっぱり、ラルフの目の前に突き出した。初めに背中、次に腹部、ラルフが太陽を背にしながら、ミンクの挿毛と綿毛を見た。櫛で毛を分け、綿毛・さし毛の長さ、密度、毛の太さ（繊細さ）、色、色の鮮明さ、艶、綿毛とさし毛に縮れがないか、毛先の色と揃い具合、シンジ（毛先の曲がり）が無いかなどを見た。また手のひらでミンクの毛を触って、その感触、背中の濃い色の通り具合、全ての経験が凝縮していて、雰囲気は殺気すら感じられた。いつも私には温和な彼が全くの別人のように表情が厳しくなっていた。私はここに厳しい芸術性を見た。プロフェッサー・ラルフと呼ぶ事にした。

太陽光線が綿毛の奥まで届くようにして全てを見通す必要がある。太陽光線の強さと角度が時間によって刻々と変わるので、この作業は1日に2時間程しか出来ず、ラルフはあっさりと選別を止めてしまった。扱うミンクは1日で約500頭、およそ20日もこの作業が続いた。妥協は全く許されなかった。

エリノアがラルフの横で、詳細を台帳とそれぞれミンクの名札に記録し、私達は足早に元の籠まで戻ってミンクを元の籠に戻し、フレッドに詳細を記した名札を返した。「ウェーン遅いぞ。急げ。」と、エリックが怒鳴り、どたどた歩いていた体重120キロが慌ててエリックの方を振り向いた瞬間何かに躓いて、悲鳴混じりに、「ファック」と吠えた。エリックは素早く、私の視線を探して、いたずらっ子のように嬉しそうにウインクした。

私はまだ、剥皮作業の時に使い過ぎて痛めた、両方の手の親指の付け根の拇指球がジンジンと痺れていて気になった。もう1か月にもなるのに、指は動くが痺れが全然良くなかった。ひょっとしてこのまま治らないのではと心





配で眠れなかった。富美子は毎晩何時間も私が寝付くまでベッドの横で私の掌を揉み続けた。痺れは夏の終わり頃まで半年以上続いた。その半年後に思った私の想像だが、人の体は不思議に良く出来ていて、使って、使いきって、潰して、初めて、より強くなるものかも知れないと思った。声楽家や相撲の行司が練習で声を潰し、兵隊が号令調整で声を潰すように、『筋肉も皮膚も骨も潰してからが本物となるのでは?』と思った。人の声帯は皮膚と筋肉と軟骨で出来ていて、それに大きな負荷をかけ、何度も潰す事によって、兵隊の声が大きく、良く通るようになるのであれば、通常の肢体の筋肉やスキンや骨も、同様であってしかるべし。運動をしていて、くたくたに疲れて、息が切れ、筋肉が痛いくらいではまだ序の口で、1度、潰れるまでプッシュせねば、人より、秀でないのではないだろうか。ひいては、もっと神秘的な奥深い可能性が存在するのではと思った。普段、誰も経験したことがないものだから、心配が先回りして、『筋肉を何度も潰す』ことは無謀だと思われるかも知れないが、精神面(脳の働き)がそれに付いて行けさえ出来れば、人間の体はそれ以上の神秘的な要求にも、対応、変化、変形、変態、成長出来るように、その時思えた。私の掌もこの1年で、セールスマンの掌からファーマーの掌に変形、進化したようだ。『体が我々の存在の基盤である以上、身体の成長再生変態は長寿のヒントではないか』(1973年30才)

サセックス・カウンティーにあるスペース農場の回りには東洋人が少なかった。我々が4人で近くのスーパー、セーフウェイへ買い物に行くと、大人はさすがにそのような素振りは見せないが、小さな2、3歳の白人の子供がよく立ち止まって、初めて見た東洋人の子供、良譲と淳子達に着目し、中には歩み寄り、首を傾げ、手でそっと良譲の肩に触れる子供がいた。フレッドにそのことを聞いて見ると、「ニュートン市に韓国人の歯医者さんが1家族いるくらいだ」と言っていた。

ラルフが突然「180頭の乳牛を全部売って、今年のミンクの餌代にする」と、言い出した。去年の収穫がごっそり全部(多分2億円位)盗まれ

たショックはさすがのスペース家でも大きかった。乳牛のオークションは1ヶ月後スペース農場で開かれることになり、「そのオークションが終われば1ヶ月間の休暇を取って良い」と言われた。突然のことに私はビックリした。1ヶ月の有給休暇などというものは、日本で生活していた私の頭に全くなかったのである。しかも、1ヶ月とは!それを聞いて、家族は「車で西海岸へ行こう。ヴァンクーヴァーへ行って、アイヴィンとキャレンと言う人に会いに行こう」と言った。今考えると、ここで、ラルフが私に、1ヶ月の有給休暇をくれたことが注目に値する。残念ながら私はその意味をその時、斟酌出来なかったのである。

道路地図を買い込み、フォルクスワーゲン・スーパー・ビートルに4人が乗り込んで、余り深く考えず、紐の切れた風船のように気ままな気分で、鉄砲玉のようなスピードで、インターステート(国道)80を西へ走った。

空はどんよりと曇り、道路の回りには乾いて、黒く汚れた雪があったが、あまり気にせず、オハイオ州に入った所でインターステート90へ入った。その日は、700マイル(1120km)走ったことになる。この分だと、西海岸へ行った後、サンフランシスコまで行けるかも知れないと思うと、浮き浮きして快適だったが、シカゴに入る前に少し緊張した。日本にいた時も、何時も、高速道路のない頃は、大抵大都会へ入る前にあらかじめ夜になるように調整し、交通量の少ない、夜中を見計らって通り抜けることが身に付いていた。

ミネソタ州に入った辺りから、過疎のためか、インターチェンジの周りにガソリン・スタンドが少なくなり、道がただ交差しているだけで何も無い所が多くなった。注意しないと途中でガス欠になるかも知れないので、ガソリン・スタンドを見附次第、出来るだけガス・タンクを満タンにすることにした。初めて見る、人工物が何も無い大地の広大さに打たれて、『これが米国なのか』と、改めて感慨無量だった。

私の父と同郷、新潟県長岡出身の山本五十六



元帥が、第2次世界大戦に突入する際に、言ったと言う言葉を思いだした。彼は米国駐在武官を数年勤めて、日本海軍の中では当時唯一の米国に精通した人物であったが、しかし、米国は巨大過ぎて、彼が言ったと言われる『眠れるタイガー』どころではなく、もっと適した表現がないか、しばし、瞑想した。英国の時の首相、ウィンストン・チャーチル卿が、時の外務大臣エドワード・グレー卿の昔の言葉として回想録に残した『米国は巨大なボイラーである。1度火が付けば、その出力は計り知れない。』の方がよりのを得ているように思えた。過去に、その巨大なボイラーを大きな猫位に思い、食い付いた、ちっぽけなネズミのような日本の歴史が、ドン・キホーテの生涯のように思えて、その考えが頭の中を占領して、どこをどう走ったか余り思い出せない。頭の中が、何故か、無念の涙で1杯になるように感じて、慌てて正気に戻った。

ダコタからマウント・ラッシュモア間では、行けども、行けども油田のポンプが目についた。ロッキーを越える辺りから風景ががらりとかわり、1面、針葉樹の緑が目についた。こちらは冬でも、立ち木も芝生も緑なのだ!

シアトルで1日過ごした。ホームシックに悩んでいた小柄な富美子が良譲と淳子を両脇に抱えるように歩きながら、「こちらは日本に近いから住み安そう」と無邪気なことを言った。突然、かわいそうになり涙が込み上げて来た。さすがにこの辺りには東洋人が多かった。店頭の鮮魚も豊富だった。

次の日、北上してワシントン州の北西部先端、カナダとの国境の町、静かで物憂い漁港ブレーンに着いた。簡単にそのままカナダ側に行けそうだが、アメリカに永住権の申請をしているので、念のため国境を越すのは諦めた。ニュージャージーを出発する前に、エリノアが、「ステーツに永住権を申請しているから、国境を超えない方がよい。もし、国境を今越えると、即時、申請が取り消されるだろう」と言っていたからだ。

国境にあるピース・アーチ公園の前の公衆電話からニルセン夫妻に電話をすると、夫妻はピンポン玉が跳ね返って来たかのように、ベージュ色のクライスラー・ニューヨーカーですぐ現れた。アイヴィンが、「どこか、レストランにでも行って話そう。私の車に付いておいで」と言って、先を走り、慌てて間違えて直ぐそこにあったインターステート(アイ-5,高速道路)の出口へ入って行った。彼をこんなに興奮させたことが、内心嬉しかった。アイヴィンは私のスペース農場での話に大変興味を持ったようで、「スペース農場のミンクはどのようなミンクで、種ミンクは幾らくらいなのか。餌は何をやり、ベビー・ミンクが生まれる時、餌は手でやるのか、エンジン付きの給餌機でやるのか?」と、質問は幾らでも出て来た。2人は、「来たい時にうちにおいて、誰も雇わずに家を空けて、ジミーが来るまで待っているから」と、言ってくれた。再会を約束して、そのまま南に向かった。

サンフランシスコまで3日かかった。途中、アイ・ファイヴ(高速道路)を出て、オレゴン・コーストに向かい、レッドウッド・ハイウェイを南下すると、海岸の風景は日本とそう変わらなかった。松林があり砂丘があった。子供が、砂を踏んでかすかな音が出るのに気が付いた。日本では『鳴き砂』とか言って、名前まで付けて楽しんでいるが、こちらの人はどうなのかなと、単純な疑問が湧いた。とにかく砂丘は大きく、鳥取の砂丘の何倍かになるだろう。

コースタル・セコイアがすばらしく大きかった。さすがに、この国は生えている木までばかでっかく、3000年以上も生き続けているセコイアが沢山ある。その木を大切に保存するため、ハイウェイが狭く成ったり、木の周りを迂回したりしている。その私の頭では考えられ無い程の、幾千年の生命の重みが計り知れない。私はある公園のレンジャラーに、日本ではよく樹にナンバーを付けて管理しているのを見かけたが、この立派な木々にそれらしいものが見つからないが、この国では樹にナンバーは付けないのかと質問したが、返事は、「数千年の寿命の樹が多すぎて、ナンバーを付けるには及ばな



い」と言うことだった。

サンフランシスコには3日いた。チャイナタウンのホリデー・インに1泊、フィッシュマンズ・ワーフのすぐ前のトラヴェル・ロッジ・ホテルに2泊。こんな風に駆け足でなく、いつかここに根を下ろして住んでみたいと思った。

そろそろ、スペースへの帰り道が気になって、じっくり楽しんでられない。来る時は夢中で、西海岸へ行き、出来ればサンフランシスコに寄ってからスペース農場に帰ることを目指していた。大陸を出来るだけ早く通り抜けること自体が目的みたいだったので、雪が降るか降らないか、考える暇すらなかった。幸いに雪は全く降らなかった。前夜、ホテルの駐車場で、出逢った人によると「雪は、ネバダまでの峠にちょっとあるが、昼間通れば大丈夫だろう」と聞いた。朝、6時に出発して、行ける所まで行こうと決めた。帰りは、インターステート80を通った。ソルトレイク・シティーの手前が後かよく覚えていないが、降り出した雪がだんだん積もり始めた。あまり新雪が積もると車体の低いフォルクスワーゲンは走れなくなるのではと気になったので、閑散としたフリーウェイの真ん中で止まり、ドアを開けて座席に座ったまま頭を突き出し、積もった雪と車体の具合をチェックした。雪のため交通量が極端に少なくなり、四輪駆動車と重量級のトラクター・トレーラーが目につき出した。陸橋の下には雪の吹き溜まりがあり、予め手前から加速度を付けて乗り越えた。雪道で時速40マイルか45マイル以上出すと横滑りし始めるので、ぎりぎりのスピードで走り続けた。

夕方5時頃だったと思うが、そろそろ、『今晚泊まる所を探さなくては』と思った途端、スピードが出過ぎてしまい中央分離帯の真ん中くらいまで横滑りし、前にも後ろにも動けなくなった。

私は左の腰をドアの突起物で打って痛かったが、子供達も富美子も「大丈夫だ」と言った。小さな子供2人も連れて、大変なことになったと、ドアを開けるか開けないうちに、後か

ら来た4輪駆動車に乗った若いハイスクールくらいの白人の男の子が2人、私達の車の前に急停車して、息付く暇もなく、牽引用ケーブルのシャックルを私の車の前のフックに取り付け、フリーウェイまで引き上げてくれた。こちらが、礼を言う暇もないうちに、笑って、「気を付けろよ。みんな」と立ち去ってしまった。明らかに彼らは、にわかに降り出した雪のために立ち往生している人々を助けて回って、楽しんでいる様子だった。『もしも、彼らが運良くすぐ後ろから来てくれなかったら、親子4人、宵闇せまる雪の中でどうしたか』と思うとぞっとした。それにしても、なんときびきびと、気持ち良く助けてくれたことか。

数日後、ビーマーヴィル村のスペース農場・博物館に帰ると、全北米トラッパーズ・アンド・ハンターズ協会の総会が開かれており、メイン・ビルディングと道路を挟んだミンク場の入り口の前の広場では、農師やハンター達の大規模なフリー・マーケットで賑わっていた。私はこの時初めて、スペース農場に全北米トラッパーズ・アンド・ハンターズ協会の本部があることを知ったのである。

肉体労働に関する限り、スペース農場・博物館の冬は1年のうち1番暇で、楽な時期であった。動物園は夏の終わりに休園し、外気が氷点下になり始めると屋外での人の動きが閑散としてきた。ラルフは毎晩、愛犬のビーグル達をつれてラックーン（狸）狩りやシカ狩りに余念がなかった。周りのトラッパーやハンター達が動物園の動物達（ライオン、マウンテン・ライオン、トラ、ヒョウ、コディアック・ベアー等）の餌にするために、罠にかかって凍ったウツチョク、ラックーン、獲物のシカなどといった獲物をスペース農場へ持ち込んだ。フレッドは、ハンター達のためにそれらを解凍し剥皮して、代償としてその屠体を貰い、動物達の餌にしていた。

ミンク小屋はアルミニウムの波板屋根だけの吹きさらしで、温度は屋外とかわらず、いつも気温が摂氏マイナス10度、マイナス15度は当たり前になった。それでも我々ヘルパーは火の





気のない飼育場で、黙々と10時間、古い餌を取り、水をやり、餌をやった。そして、やった餌を凍ってもミンクが食べられるように、凍る前に編み目に平に押し付けて回り、巣箱を掃除し、巣草を補給し、働き続けた。ミンク達には籠の通路側に厚い木製の巣箱があり、巣箱には巣草の暖かいステイドライ(ハワイ製シュガーケインの搾りかすの乾燥したもの)やキルン・ドライ・シェイヴィングス(乾燥鉋屑)がたっぷり入っていた。

ロイと私はその吹きさらしの薄暗いミンク小屋の中で、延々とミンクの血液採取を始めた。ロイが使い古した小さめのミトンで喘ぎ喘ぎ、籠の中で逃げ回るミンクを掴み、私がミンクの後ろ足の1本の爪を爪切りで僅かに深爪に切る。そして息を殺して、ガラスの毛細管で血液を採取し、フレッドが近くに停めた彼のゆったりと居心地の良いモーター・ホーム(キャンピング・カー)の中で円心分離器を回した。

私は大体が日本の南北中央部の関西育ちで、マイナス15度の屋外で、毎日10時間働いた経験がなかった。昼休みは1時間あったので家まで走って帰って、暖かい食事を取って暖まりながら、長椅子の上でわずかでも休憩が取れたが、火の気のない屋外での実働10時間労働は毎日が試練だった。疲れが溜まり、それが胃に影響しはじめた。米食はよく噛まないと消化に時間がかかり、どうも具合がよくないと感じたので、富美子に肉食にして貰って、噛む時間を節約した。毎日、朝も昼も、富美子の実父から送ってもらった、苦くて黒いアロエとセンブリの冷凍乾燥粉末を頬張って、背中にカイロを入れて、歯を食いしばって家を出た。

移民局から突然我々に『強制送還14日前』という通知が来た。エリノアがそれを受け取り、ラルフがフレッドと私を事務所へ呼んだ。約束では、1年前に、直ぐにグリーン・カード(永住許可カード)の申請を始めるとのことだったが、「忙しくて、うっかりしていた」とフレッドが何時ものように大きな目を見開いて、頭を左右に振って、両手を広げるしぐさでおどけて言った。ラルフがかんかんに怒って、彼の弁護士に

電話をした。次の日、私とフレッドとラルフの弁護士が1時間半程離れたところにあるニューワーク市の移民局に出向いた。手続きが全て済んで移民局の事務所を出ると、フレッドは私を見て、「これでもう心配はいらない」と言った。夕方家に帰って、富美子と2人でその日に起ったことを色々考えてみたが、どうも、私は心外でおさまらなかった。我々は1年を棒に振った訳だし、しかも、人1倍、スーパーマンのように頑張ったのに、「うっかりしていた、やり直したから良いだろう」ではすまない。

ラルフには悪いが失望した。多分、裏にはもっと細かい読みがあったのかも知れない。私のような人間が何時までも人に使われている筈がないし、早くグリーン・カードが取れば、早く巣立ってしまうかも知れない。出来るだけ長く働いて貰いたが、長くいて貰うには、良い給料と良い身分が必要だ。時間を十分稼いで観察していたのかも知れない。

次の日の朝、私はオフィスへ赴きラルフに、「少し暇を貰いたい。昨日の出来事は、我々には非常にショックで、乗り越えるには時間が掛かります。富美子も極度のホームシックだし、この際1度、日本に帰って、良く考えて出直したい。もし、私が、種ミンクを買い取った時、1番にラルフのミンクを考えるから、その時は宜しく頼みます」と言った。黙って俯いていたラルフは「その時は、1番良いミンクを俺が選んでやる」と言った。この時のラルフの目が忘れられない。本当に彼は、私を信じていたようだった。

数年後、フレッドから聞いて分かったことだが、彼は動物園が忙がしい上、もともと目が悪く、ミンク場を継ぐつもりは全くなかったそうだ。エリックも動物園が好きで、年老ったラルフだけがミンク・ビジネスを信仰していた。10人程いたヘルパーの中で、私だけがラルフとフレッドの着ていたカーキ色の作業服を着せられていたこと、我々の家がラルフの隣、フレッドの筋向かいで、レイを除いて誰よりもラルフの家に近かったこと、仕事はフォーマンのロイの仕事の見習いであったこと、私が来る前までフ



オーマン見習いであった元ミンク飼育者の白人レイが、自分から身を引いて、スキニングが始まると同時に、ペンシルバニア州の某ミンク場へ移って行ったこと等々、ラルフ私を期待していたからこそあった。

私が働き出して、しばらくして、ラルフはミンク小屋を増設していた。驚いたことに、彼の小屋の柱はとんでもなく太くて、丈夫なレールウェイ・タイ(腐食防止処理を施した、鉄道の枕木)で出来ていた。

10年程後に、スペース農場を訪れた際、フレッドが言った。「ジミーが辞め、ロイが間もなく死に、ラルフが亡くなる数年前、種ミンクを君に送った後、我々は、ミンクから手を引いた」

顔見知りのトロント在住の白人の毛皮バイヤー、ミスター・グリーンバークが、ラルフが亡くなって、スペースがミンクを止めて数年後にシアトルのオークションで会った時、小声で、「ジミー、ラルフが亡くなったのを知っているか？ラルフにはワイフが2人いたのを知っているか？」と、聞いて来た。「お前はとんでもない人に見込まれたものだ」と、私のことを言った。「スペース農場はミンク業界では名門で、他のミンク・ランチャー達が勉強のため自慢の子弟を見習いに送り込むのだが、仕事がきつくて(人使いが荒くて)、誰も長続きせず、2、3か月で尻を割るのが普通だった」そうだ。「お前はそのことを知っているか。お前にはどうだったか」と彼が聞いた。「私には親切だった」と言うと、「ラルフは、お前を信頼していた」と、言った。(これが名門の若いミンク飼育者に私が嫉妬され、羨ましがられ、引いては、ミス・トゥリートメントの原因になったのかも知れない。――2009年記)

私達はフォルクスワーゲンの赤いカブト虫に積めるだけの物を詰め込んだ。テレビとブラ

スティックのゴミ袋に入った4人分の衣類と鍋と食器と毛布と枕は後部座席に、既に6歳と3歳になった良譲と淳子は、それらと天井の僅か25センチ程の隙間に腹這いで潜り込んだ。残念ながら去年買ったばかりの洗濯機、乾燥機、応接セット、4人のベッド、食卓テーブルとチェアー、掃除機は積残してしまった。近くのニュートン市まで出て、BC州のアイヴィンに電話すると、彼は喜んで、「ミンクの種付けが始まるので、もし、来られるなら3月3日までに来て欲しい。3人臨時の種付けヘルパーを頼んでいるが、君が来てくれるなら1人か2人断ることにする」と言った。我々は僅か4日間で、冬の真ただ中のアメリカ大陸をカブト虫で横断しなければならなかった。この時は、殆どホテルには泊まらなかったように思う。延々と走り続けて、毎日1080キロずつは走ったことになる。今から考えると、子供達も良く耐えていた。別段これといって覚えていないので、自分を主張するよりも家族が直面している事態を良く理解し、2人とも文句すら言わなかったようだ。

それにしても4日間であった。途中、2日目だったと思うが、レスト・エアリアで淳子のために、食器や鍋をゴミ箱に捨てて、座れるように隙間を少し大きくしたことを覚えている。良譲は4日間、そのまま荷物と屋根に挟まれて腹這いで頑張った。良譲に、「テレビセットを棄てると、座れるかも知れない」と言って見たが、無駄だった。

ブレーンのカナダ税関を通る時、私達がステーツに1年いたことを承知の上で、「金は幾ら持っているか」と若いオフィサーが言い出した。私たちが持っている日本円の1部をカウンターの上に取り出し始めると、横にいた年配のオフィサーが、突然にここにこし出して、「金があるならよろしい」と言って、車まで来ると、詰めるだけ詰めた後部座席の毛布を形式的に少しつまみ上げ、「行け」と言った。(つづく)

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター (R&I)

〒100-0011 東京都千代田区幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 18 階 ヴィップシステム(株) 内

●TEL 03-5860-9483 FAX 03-5860-9477

●事務局 TEL 080-9982-6237

●事務局 E-mail : haruo\_shimamura@hotmail.com HP : <http://retire-info.org/>

(発行責任者) 事務局 島村 晴雄



# 熊野詣

神武東征説話

八咫鳥(やたがらす)の故地を訪ねる

令和4(2022).6.14-15

文 石尾賢一 絵 飯田誠





### 熊野詣(その1) 旅のプラン骨子

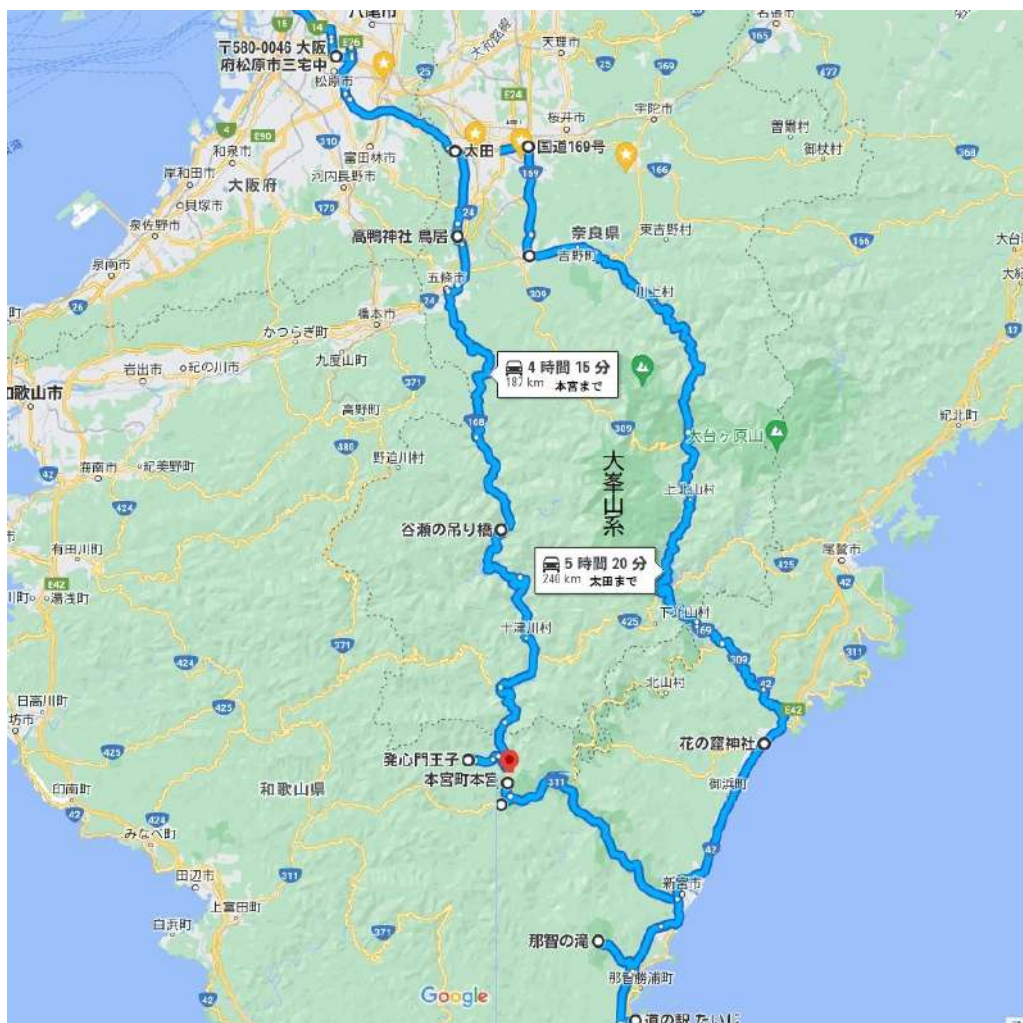
紀伊半島は役行者が開いた修験道の本拠地。大峰奥駈道は吉野金峰山寺から熊野本宮に至る修行の道。さらにさかのぼれば神武天皇が八咫烏(やたがらす)に導かれて熊野から橿原に至り日本国を建てられた道でもある。わたしは壮年期には吉野大峰山に毎年登拝していました。令和4年6月コロナの旅行制限が緩和されたのを機に一泊二日で熊野を訪ねました。旅の友は優れた絵心と食文化に詳しい飯田夫妻。飯田誠画伯は大阪府立豊中高校での同級。東京藝術大学にて絵画科油画を学んだ。吉野・熊野の自然と歴史の真髓をお伝えできればうれしい。

#### ポイント①

神代の時代から踏まれてきた古道(世界遺産)を巡り、日本の精神文化、食文化の深淵を探ること。

#### ポイント②

湿りを得ていきいきとした樹林や苔の杜、山際から立ち上る霧雲の変幻を楽しむこと。コロナ規制が明けた直後、梅雨の時期ということで静かで落ち着いた旅をめざしました。宿泊は熊野三湯のうち大きな露天風呂がある渡良瀬温泉を選びました。



## (熊野詣で)その2 葛城古道 風の森

大阪府と奈良県をわける金剛、葛城山系の奈良県側山麓一帯は大和朝廷に先立って栄えていた鴨氏や葛城氏の故地で、神さびた古社が点在します。その山裾に沿って南北に続く道が「葛城古道」。高鴨神社、鴨都波(かもつは)神社、鴨山口神社など「鴨」の名を持つものと葛城坐一言主(かつらぎにいますひとことぬし)神社、葛城水分(みくまり)神社、葛木坐火雷(かつらぎにいますほのいかずち)神社、(笛吹神社)など「葛城」の名のつくものが目につく。

車は阪神高速道路から阪和自動車道を経て、美原インターチェンジから南阪奈自動車道に入り、難波津と大和を結んだ日本最古の官道竹内街道に沿って大和盆地に至る。車中から畝傍、耳成、香久の大和三山を眺めたあと葛城インターチェンジで高速道を降りて「葛城古道」を南下していく。この「葛城古道」は葛城山金剛山の東側山麓を走り雰囲気は特別感があって吉野や洞川に車でいくときこの古道を利用している。

### 「葛城古道」風の森より大峰山系を望む



晴れていれば天河弁財天社の奥宮がある主峰「弥山」を眺めることができる。殊に雪をいだいた山嶺は眺めて飽きることがない。

写真のあたりは「風の森」とよばれ目の前の田は日本国を表象する「秋津島」から名付けられた酒米「秋津穂」を栽培している。アキツとはトンボの古い呼び名。

六代孝安天皇の宮を『古事記』は『葛城室之秋津嶋(かつらぎむろのあきつしま)』『日本書紀』は『都を室(むろ)の地に遷(うつ)す。これ秋津島宮という』と記す。



### (熊野詣で)その3 高鴨神社

紀元前 5 世紀～4 世紀、縄文時代最晩期から弥生時代前期頃には最初の神殿が造営され祭祀が執り行われていたとされる、国内最古の神社のひとつ。この地は古代の豪族・鴨氏発祥の地であり、神社にはその鴨氏の氏神である阿遲志貴高日子根命(あぢしきたかひこねのみこと)=迦毛之大御神(かものおおみかみ)が主祭神として祀られている。

ご祭神の「迦毛之大御神」は、高天原になりました「造化の三神」の一柱に数えられる神魂命(かみむすびのみこと)と同神とされ、孫にあたる「賀茂建角身命(かもたけつのみのみこと)」は神武東征の際に大和の葛木山に至り「八咫烏(やたがらす)」に化身して熊野に上陸された神武天皇を橿原まで先導された。この旅はその足跡をたどることになります。

「高鴨神社」を創祀した鴨氏は祭祀系氏族で、修験道の開祖である役行者や、安倍晴明の師で陰陽道の大家であった賀茂忠行も鴨氏で、天体観測や薬学の知識、製鉄や農耕の技術、馬術などにも長じていました。同行の飯田画伯は、なぜか鴨の絵を描かねば・・・と画想を練っていた。





#### (熊野詣)その4 谷瀬の吊り橋

奈良県五條市から吉野熊野の山塊に分け入って車を走らせること2時間程度で、十津川村谷瀬の吊り橋が現れる。十津川の上野地と谷瀬を結ぶこの鉄線の巨大なつり橋は長さ297m高さ54m日本有数の長さを誇る。昭和29年に村民がお金をだしあって完成させました。

橋を渡るのは無料で、足元は金網で防護されているので危険はない。橋の中央付近で風が吹くと身体がもっていかれそうになってなかなかのエンターテイメントを楽しめた。



#### (熊野詣)その5 寄り道

奈良県は日本酒発祥の地。かつては寺社で盛んにお酒がつくられていました。長い歴史がある杜氏の世界も様変わりして女性が活躍されています。

梅乃宿 代表取締役 吉田佳代

<https://www.umenoyado.com/cat-about/column/season04>

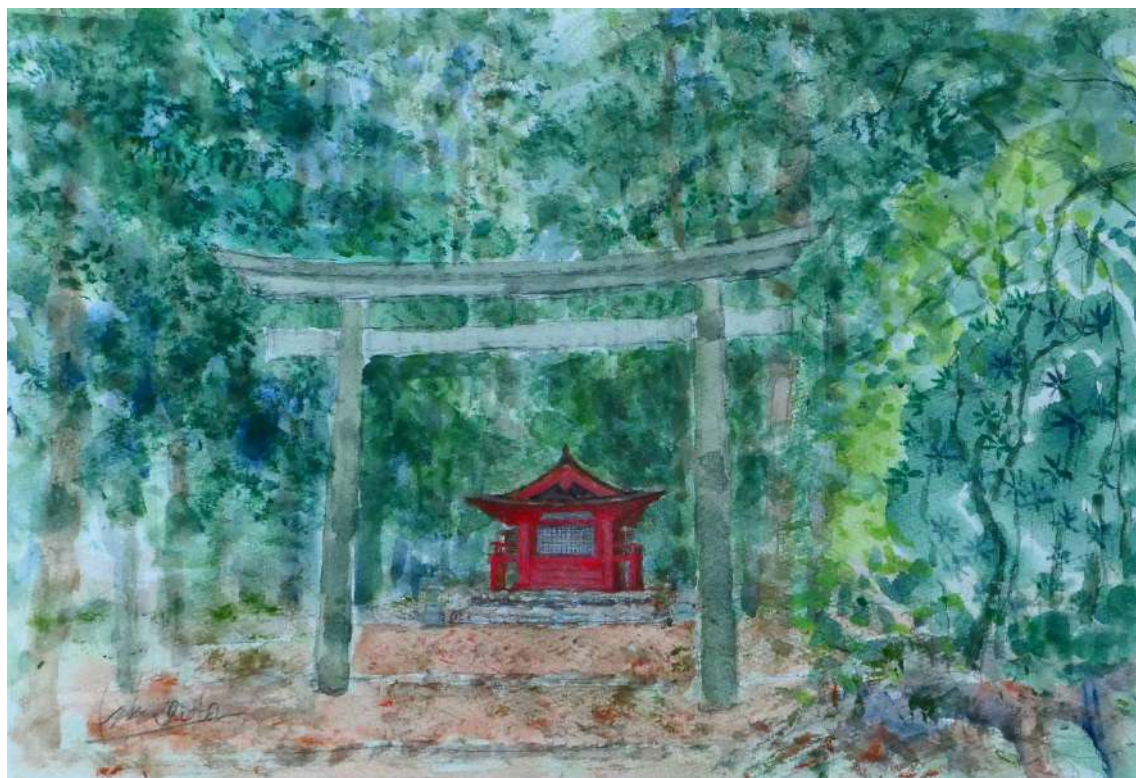
油長酒造「風の森」醸造責任者 中川悠奈

<https://www.ns-sugiura.com/?tid=2&mode=f11>

梅乃宿先代の奥方は豊中高校の同窓(24期)です。



(熊野詣)その6 熊野古道 発心門王子から熊野本宮



発心門王子(飯田誠)

乗用車を熊野本宮前駐車場に留め、本宮前から龍神バスに乗車して終点の発心門王子に向かう。紀伊田辺から2時間かけてやってきたバスは、本宮前からわれわれ三名を乗せて出発した。バスの運転手によると紀伊田辺からこれまでの乗客は二名だったそうだ。完全貸し切り状態の乗り合いバスは15分程度で終点発心門王子に到着した。熊野古道のうち紀伊田辺から熊野本宮に至る中辺路コースはポピュラーな人気コースである。その最後の部分となる歩行距離6,9km、歩行時間約2時間30分、所要3時間30分にて歩くことになる。

小雨がしとしとと降ったり止んだりしている。道中は美しい杉林を抜け小さなアップダウンをくりかしながら、人家や畑のある開けたところに出ると霧に煙る果無山系を望むことができた。少雨とはいえども山中の杉道なので木の根っこが張り出して小さな水たまりを作っている。水溜りをさけつつ歩をすすめるのだが、それが延々と続くのでおのずと足元を濡らしてしまう。古来より熊野本宮に至るまで溪流をいくつも渡渉することで褌をなしたと伝えられている。雨によりできた水溜りは褌のための神水と解して前へすすむ。

深い杉林と羊歯が生い茂る杜を貫けていく途は平安の昔から多くの都人が本宮を目指して歩いた千年以上の歴史と趣ある参詣道ではある。しかしながらこの日は途中ただの一人も出会うことがない。この日は全くの貸し切り状態で幽玄の趣がたどよう世界遺産を楽しむことができた。







(熊野詣)その7 大斎原(おおゆのはら)



大斎原(おおゆのはら)(飯田誠)

熊野本宮大社はかつて、熊野川・音無川・岩田川の合流点にある「大斎原(おおゆのはら)」と呼ばれる中洲に五棟十二社の社殿、楼門、神楽殿や能舞台など本宮のすべてが設けられていた。ところが明治 22 年(1889 年)の 8 月に起こった大水害により社殿の多くが流出し、水害を免れた四社を現在の熊野本宮大社がある場所に遷座した。現在の大斎原には、流失した中四社・下四社をまつる石造の小祠が建てられている。

大斎原は平成 12 年に建てられた日本最大の大鳥居(高さ約 34m、幅約 42m)以外にはめぼしい建屋などは一切無い。高さが背丈程度の石垣が巡る広大な結界は我々を除いて人の気配がなく鳥の声が静寂を破る以外音のない世界に包まれている。この神さびた雰囲気はここに居てこそ全身の肌で受け止めることができる。「何もないけれど、全てがある」言葉にできない満ち足りた世界を堪能することができた。

結界を抜けて川原に出ると、大小さまざまな石が積み重なり荒涼とした雰囲気もあって洪水の荒々しさを物語っている。





### (熊野詣)その8 八咫鳥

まさに大鳥居を飛び出そうとしている八咫鳥(ヤタガラス)。是非これからの日本を先導していただきたいと願う。



### (熊野詣)その9 八咫鳥の寄り道(1)

さっそく八咫鳥に登場いただき神武東征説話の真実に迫ってまいります。  
神武天皇は実在したのか、神武東征はあったのか？

神武東征説話のうち浪速(なみはや)では神武軍は浪速の渡を経て河内湖(当時)に入り生駒山麓の日下に至ったと記述されています。建築家で評論家の長浜浩明氏は当時の大阪湾の潮位、干満による河内湖への流れ込み、淀川水系からの流出を検討して『古事記』、『日本書紀』に書かれた神武東征の時期を特定されています。

わたしは淀川区十三の生まれで子供のころは新淀川の土手や河原は遊び場所でした。海から海水が上がってくる汽水域なので川面は干満で上下します。ボラやハゼが泳ぎ、淡水域で生息するしじみも良く摂れて味噌汁の具にいただきました。十三小学校では体育の授業で淀川堤を走りました。阪急電車淀川橋梁北詰あたりからスタートして上流に進み、南方でJR東海道線をくぐり抜けて長良橋で折り返します。

このように自分の土地勘を頼ると、神武東征の頃は現在より潮位が高く大阪湾から河内湖に抜けるのに干満の差を利用したという長浜説はストンと腑に落ちる説明です。

<https://youtu.be/yyumrh9Z83s...>

・カシ米尔3Dによる検証

今から 2100 年くらい前まで大阪湾(茅渟海)の海面は現在より6~7m 水位が高く、生駒山から上町台地の間の低地は河内湖と呼ぶ湖でした。現在でも門真あたりには沼田があって蓮根の産地です。

当時の大阪湾(血沼海/茅渟海)は上町台地の先端にある豊崎神社あたりを南端、千里丘



陵がはじまる江坂の垂水神社あたりを北端として河内湖とつながっていました。

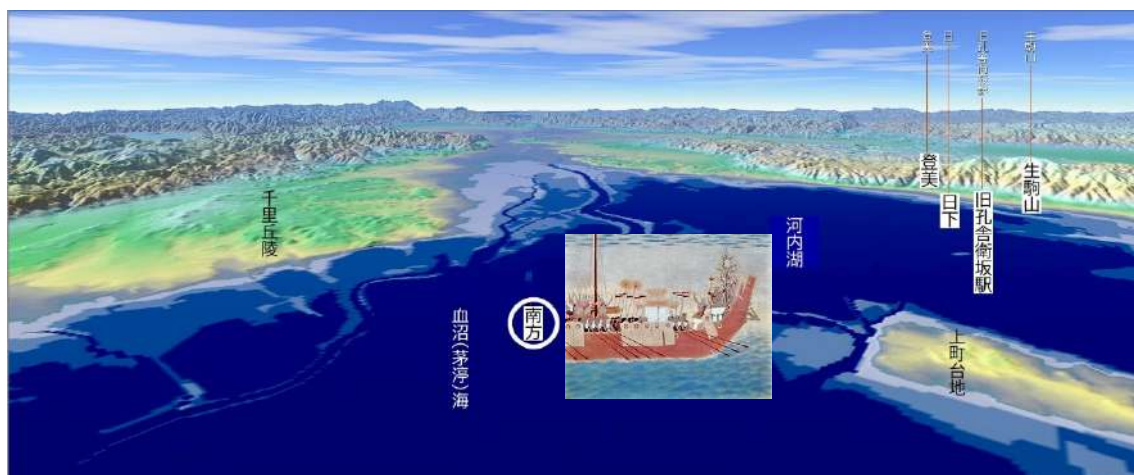
図はカシミール3D地図ソフトで海面を6mアップして当時の海岸を仮想的に描いたものです。その下の和文は『古事記』、『日本書紀』のなかから神武の一団の通過と関係した地名を拾ってカラーでマーキングしました。

古事記 = 浪速の渡、登美、日下、南の方、血沼海

日本書紀 = 難波之碕、河内國草香邑、胆駒山、孔舎衛坂

文中に神武軍がナガスネヒコとの戦いに敗れて河内湖と大阪湾の境「南の方」を回り込んで大阪湾(血沼海/茅渟海)に逃げた。とありますが、「南の方」はたぶん「阪急南方駅」、「大阪メトロ西中島南方駅」あたりを指しています。

神武東征のころの大阪湾と河内湖(カシミール3Dによる作図)



## 日本書紀の記述

## 古事記の記述

戰。	我國。	長髓。	不得。	甲辰。	至河。	與許。	浪速。	接。	戊午。	到血。	迴而。	向日。	美毘。	是。	故號。	以音。	肩津。	從其。
有流。	則盡。	多間。	並行。	辰、	內國。	奈磨。	國、	方到。	午年。	血沼。	、背。	而戰。	毘古。	、與。	其地。	音興。	津。	其國。
矢、	盡起。	之曰。	乃還。	皇師。	草香。	磨處。	亦日。	難波。	春二。	海、	負日。	不。	之痛。	登美。	謂楯。	軍待。	。此。	上之。
中五。	屬兵。	一夫。	更欲。	勒兵。	邑。	。三。	浪花。	之碕。	月丁。	洗其。	以擊。	良。	矢串。	能。	楯津。	向以。	時、	行之。
瀬命。	、徵。	天神。	東踰。	步趣。	靑雲。	。三。	、今。	、會。	朔丁。	御手。	期而。	故。	。故。	那賀。	、於。	戰、	能。	經。
肱脛。	之於。	子等。	膽駒。	龍田。	白肩。	月卯。	謂難。	奔潮。	朔丁。	之血。	自。	負賤。	爾詔。	五瀬。	云日。	爾取。	須泥。	浪速。
。七	孔舎。	所以。	山而。	。而。	之津。	朔丙。	波訛。	太急。	未、	、故。	南方。	之痛。	一吾。	命、	下之。	所入。	泥毘。	渡而。
	衛坂。	來者。	入中。	其路。	。夏。	子、	也。	。因。	皇師。	謂血。	迴幸。	手。	吾者。	於。	夢津。	御船。	古自。	泊青。
	、與。	必將。	洲。	狹峻。	四月。	、遡。	。訛。	以名。	遂東。	沼海。	之時。	自今。	為日。	御手。	也。	之楯。	登下。	雲之。
	會	等	時	人	朔	徑	云	爲	、舩。	也。	、	者行	神之。	負登	。於	而下	九字	白

話がおもしろい横道にそれますが。。

わたしは同志社大学工学部電子工学科に1966年度に入学して1970年に卒業しました。三回生まではたぶん国文科生に負けないくらいたくさん本を読んでいたのも工学部文化史学科在学と名乗ってもよかったと思っていました。しかしながら四回生の卒業研究にあたり元の路線に従い電子回路研究室を選択しました。この研究室は京都大学を退官された電離層電波物理が専門の小川徹教授が同志社大学工学部に招聘されて発足した研究室でした。ところが前年京都大学の都合で小川先生は呼び戻されて京都大学工学部附属電離層研究施設超高層電波工学研究室、超高層電波研究センターや半導体レーザーの研究をまかされることになってしまいました。その後小川先生は1987年に二度目の退官をされました。

そのような事情から同志社大学では急遽学内からO先生を抜擢して研究室を引き継ぐことになりました。折しも団塊の世代が大挙在学していた時代で、かつ安保反対闘争でゲバ学生により学内が封鎖されていました。この年は大学紛争が燃え上がり東京大学では入学が取りやめになったバタバタの時代でした。

同志社大学今出川校地もメインの教室はバリケード封鎖されていましたが、敷地のはずれにあった工学部の建物には封鎖の手が回らなくて研究室での実験などは滞りなく行えました。自分の卒業研究はHe-Ne(ヘリウムネオン)レーザーの発振と光の偏向性能などの基礎研究でした。研究室の建物は北側が相国寺に接していて、日が暮れると森閑とした相国寺の森が目の前にひろがっていました。He-Ne レーザーは光の集光性、直進性に優れていて、可搬式のレーザー発振器をその闇に向けて発すると距離が離れていても光の届いたところがボーと光った。その光を見た相国寺の坊さんはさぞや怪しんだことであろう。大学は御所の真北に隣接していて京都の中心にあるので研究室の屋上は五山の送り火などの格好の展望台でした。

さて本論はこれから。

当時共産党の民青や全共闘学生たちはユダヤ人マルクスが創ったマルクスレーニン主義という思想に煽られてゲバ棒を持って暴れていました。その悲惨な結末が浅間山荘事件やテルアビブでの銃乱射でした。しかしながらわたしのような工学系の人間は、まさに唯物な物性を実験という冷静な目で検証するので、頭のなかで組み立てられた恣意的な観念だけでは行動できません。仮説を論じることはできても実験で検証できなければアウトです。

ほな、どないすんねん(\*\*)

…続く…

白い窓枠の建物が同志社大学工学部研究室棟。左手の森が相国寺。





またまた話がそれますが、

今、北からミサイルが飛んできたら日本は避けることができるでしょうか？音速の何倍の速度で飽和的にミサイルが撃ち込まれる可能性がないと言い切れないのが恐ろしいところです。

神武天皇が熊野に上陸して奈良盆地をめざして北上するとき完全に道を失いました。いま車で走ってもナビがなければ途方にくらせてしまいます。そのとき導きの神としてあらわれたのが八咫鳥(やたがらす)の一族でした。神武の一行は八咫鳥に導かれて無事大和入りを果たすことができました。

橿原神宮 神武天皇御一代記御絵巻 より



(熊野詣)その12 八咫鳥の寄り道(4) 金の鷲(とび)作戦

八咫鳥の寄り道(1)(2)より ほな、どないすんねん(\*\*) ..の続き..

神武天皇が長髓彦(ながすねひこ)と戦っている際に、金色の霊鷲(とび)が天皇の弓に止まり、その体から発する光で長髓彦の軍兵たちの目がくらみ、勝利することができた。この霊鷲を指して「金鷲(きんし)」と呼ぶ。



「神武天皇の御東征」 野田九浦 筆

名づけるなら「金の鷲作戦」

レーザー兵器は1980年代米国では「スターウォーズ計画」にて検討されたが、技術が追いつかず実用化されませんでした。当時と比べレーザー発振器の能力と高速誘導処理の性能が格段に向上したので、飛んでくる飛翔体を瞬時に狙い撃ちするためにはこれしかない防御兵器です。すでに民生で使われているものに間に合わせできるパーツがあるような気がします。50年前大学の研究室でレーザー発振器の電源を製作していたころを懐かしく思い出しています。飛んでくるミサイルに照準を合わせる誘導部分ならゲームに慣れた学生が喜んで開発競争するのは、日本では防衛装備庁が次のような開発計画を発表しています。

防衛装備庁は飛行ロボット(ドローン)を撃墜する車両搭載型の高出力レーザー兵器を2023年度までに開発する。レーザーはミサイルと違い、電力を確保すれば繰り返し射撃できるためコストを飛躍的に削減でき、抗たん性(生き残る性能)も高い。研究中の出力100KWレーザーと別に10KWの小型レーザーを製作、陸上自衛隊の実車両に取り付けて実証実験を始めました。

実際のミサイルは一発当たり数百万円、数千万円かかります。レーザー弾は一発当たり100円見当という資料がありました。

### (熊野詣)その13 熊野本宮大社

本論にもどります

ご祭神 家津御子大神(けつみこのおおかみ)(素戔鳴スサノオ尊)

(縁起)

天火明命(あめのほあかりのみことは)、古代、熊野の地を治めた熊野国造家の祖神です。天火明命の息子である高倉下(たかくらじ)は神武東征に際し、熊野で初代神武天皇に天剣「布都御魂(ふつのみたま)」を献じてお迎えしました。

時を併せて高御産巢日神(たかみむすひのかみ)は天より八咫烏(やたがらす)を遣わし、神武天皇を大和の橿原まで導かれました。

第十代崇神天皇の御代、旧社地大斎原の櫟(いちい)の巨木に、三体の月が降臨しました。天火明命の孫に当たる熊野連(くまののむらじ)は、これを不思議に思い「天高くにあるはずの月が、どうしてこのような低いところに降りてこられたのですか」と尋ねました。すると真ん中にある月が「我は證誠大権現(家都美御子大神＝素戔鳴尊)であり、両側の月は両所権現(熊野夫須美大神・速玉之男大神)である。社殿を創って齋き祀れ」とお答えになりました。

この神勅により、熊野本宮大社の社殿が大斎原に創建されたと云われています。





(熊野詣)その14 那智御瀧・青岸渡寺・那智大社

熊野那智大社・熊野速玉大社・熊野本宮大社とともに熊野三山と呼ばれている。

那智御瀧は高さ 133m。一段の滝としては落差日本 1 位。華嚴滝、袋田の滝と共に日本三名瀑に数えられている。流下する水量は毎秒 1 トン程度といわれている。前日からの雨を集めて豪快に落下していた。





(熊野詣)その15 青岸渡寺・那智大社

那智山青岸渡寺・熊野那智大社は那智御瀧から463段の石段を登り、標高約350メートルの台地に位置している。

御瀧からほぼ瀧の高さくらい斜面を登り、ひと汗かいて青岸渡寺に出た。青岸渡寺と那智大社は隣り合っているがこれは明治維新の神仏分離令により神社と寺院に分離されたもの。それまでは神仏混淆で神と仏は共存されていた。青岸渡寺は西国三十三ヶ所観音霊場の第一番札所である。ご本尊は如意輪観音菩薩。堂内にすすんで般若心経を読呪させていただいた。

寺と神社を別ける門をくぐると神社の朱の神殿があざやかに現れた。那智大社は夫須美神(ふすみのかみ) またの名を伊弉冉尊(いざなみのみこと)が主神とされる。門をくぐったところに「那智の大楠」と呼ばれている大クスの古樹が大きく枝をひろげていた。この楠は往古平重盛が此处に参詣した折に御手植えしたと伝えられ、樹齢約850年、目通り約8.5m、樹高27mという。楠は幹が大きく洞になっていて下部から上部へと潜り抜けるくぐりを楽しんだ後、神前にすすんでお参りした。





(熊野詣)その16 花の窟屋(いわや)神社

那智大社を参拝した後、熊野灘に沿って北上し、海岸に屹立する花の窟屋神社へ向かう。「花の窟屋神社」は『日本書記』の一書につぎのように伝えられている。

伊弉冉尊(いざなぎのみこと)が火の神を生んだときに、焼かれて亡くなった。そこで、紀伊国の熊野の有馬村に葬った。土地の人がこの神の靈魂を祭るのは、花の季節には花をもって祭り、また鼓や笛、旗を用いて歌い舞って祭る。

とあり、日本創成の神を祀った日本最古の神社である。社殿はなく高さ 45m の石巖壁の正面に檀を作り玉垣で囲った拝所が設けられている。年二回の祭りには約 170 メートルの大綱を岩窟上の御神体から境内南隅の松の御神木にわたされる。この時は村人総出で海岸に打ち並んでお綱を引っ張る。





花の窟屋神社は世界遺産に指定され駐車場もかつての何倍も広げられて整備されていた。入り口の大きな石碑に導かれて神域に入ると、この地が生じるバイブレーションは全く変わっていなかった。すぐ隣を国道が通っているのだがそのことに気が付かないほど石巖壁の神秘的な存在感に満たされる。やはり最後にこちらを訪れてよかった。十分な気を受けて充足した後、神域を保っておられる作務の方に軽く会釈をして外に出た。

(熊野詣)その17 七里御浜

花の窟屋神社の前には熊野灘と七里御浜が広がる。御浜は約 22Km続く日本で一番長い砂礫海岸。アカウミガメの上陸地としても知られている。海岸にはアーティストが一人画想を巡らせていた。全く贅沢なヒトだ。



### (熊野詣) その18 大峯奥掛道

古来より熊野古道はいくつかのルートがあって各地から熊野本宮大社に向かうことができました。なかでも難路は吉野金峯山寺からの「大峯奥駆道」です。世界遺産に登録されている参詣道でこれほど人を拒んで入山が困難な道は他にないと思います。殊に金峯山寺から一日行程の大峯山寺はいまだ女人禁制で女性の入山は禁じられています。母方の祖父や家内の叔父が大峯行者であったのでわたしも壮年期には毎年大峯山山上ヶ岳に登拝していました。山上ヶ岳から南の弥山や釈迦岳は標高 2000m に近い高山でスポーツ登山でも十分な装備が要求され軽々に登れる山ではありません。

この度の熊野本宮大社参詣はこの大峯奥駆道の西側の十津川谷から本宮に入り反時計周りに巡って熊野から大峯奥駆道の東側、北山川を遡って帰阪しました。一泊二日の早駆熊野参りではあったけれど十分熊野の魅力を楽しめたのではないかと思います。旅と一緒に楽しんでいただいた飯田ご夫妻に感謝申し上げます。なにより熊野本宮をめざして旅することで素戔嗚尊の神威に触れていただけたのは誠に喜ばしいことでした。素戔嗚尊は京都八坂神社のご祭神でもあります。祇園祭は疫病が鎮まるように祈りを込めて約 1150 年前(平安時代・貞観年)にはじまったものです。熊野での神威が大きかったので平安京に勧請されたのでしょう。

### 熊野古道各ルート図



(熊野詣)その19 旅の終わりに

熊野本宮大社中門には大きな菊ご紋の幕が垂れていますが、これは天皇が勅使を派遣して奉幣を献じられる神社の印です。奉幣を受けるべき神社は延喜式内社と呼ばれ全国で3123 座が記されています。天皇陛下はこれら全国の神社を統括して日本の神々を祀る頭領であって、決して権力を握って国を采配するお立場ではありません。現在も全国津々浦々の神社では氏子が一年の無事息災を願って喜々として祭りの準備に勤しんでいます。仮に日本が天皇を廃し共和制にして大統領が神社の祭礼を統轄することができるでしょうか。政治権力と祭祀を分離して国家を運営しているのは日本国が世界に誇る制度であり智慧です。世界のすべての国の元首が日本と天皇陛下に畏敬を込めて接するのはこの制度のおかげです。

太平洋戦争に負けて以来、我々の世代からは日本国のなりたちを学校で学べなくなりました。日本国の歴史は古来より何千年も口移しに語り継がれたもので、文書化されたのは天武、持統天皇の御代でした。全国各地で伝承されてきた物語を国家事業として組織的に集めて編纂されたのが西暦 700 年前半の『古事記』『日本書紀』です。しかしながら、「神代巻」に書かれた神話を荒唐無稽として一蹴したのが最高学府の先生方であり、名をなした文筆家でした。神武東征説話は各地に濃厚な伝承が残っています。空想とされる欠史八代においても七代孝霊天皇あたりからは具体的な痕跡を発見することができます。さらに近年になってこれまでたてられた学説に訂正を促す成果が次々と発見されています。身体が元気な間はこれからもこのような発見の旅に出かけたいと願っています。また一緒に緒しましょう。

令和四年(2022 年)六月 太陽系惑星が一行に整列する年

石尾賢一 拝





(熊野詣)その20 旅の終わりに(2)『深層日本論』

豊中高校 12 期の麻殖生(まいお)健治様が日本交渉学会名誉会員として、こぼれ話的なお話を聞かせていただく会があります。6 月度は「今昔物語のコンフリクトマネジメント(紛争管理)」という内容でお話しをされましたが、その前座に麻殖生様の東京大学時代の同級生であった工藤隆先生の書かれた『深層日本論』の紹介をされました。

工藤先生は1995年4月から一年間雲南省に滞在されて、『古事記』などの作品の中に、(日本の縄文・弥生時代および古墳時代)の文化の痕跡を見いだすために、村落の中で生きている神話・歌垣・呪術の調査をされました。その調査結果を 2019 年『深層日本論』に著されました。この書では(熊野詣)で紹介した『古事記』『日本書紀』など古伝承に秘められた日本の基層文化のルーツが中国、ミャンマー国境付近の高地に現存していたことを示されていました。結論部分のみを下記に示します

「敗戦後の日本国憲法では象徴天皇制へと転じ、天皇から武力王・行政王の側面が排除され、天皇は、縄文・弥生時代以来のヤマト族のアニミズム系文化の結晶体としての、文化王の側面だけに特化した存在となった。となれば、文化王としての天皇は「超一級の無形民俗文化財」(『大嘗祭--天皇制と日本文化の源流』)だとする私のような主張が許容される段階に入ったといえよう。文化王としての天皇存在は、ヤマト族の、少数民族的原型生存型文化を色濃く継承している、世界文化遺産級の価値を持っているのである。」

詳しくは

工藤隆. 深層日本論—ヤマト少数民族という視座—(2019 新潮新書) をご覧いただければよろしいかと思います。

麻殖生健治様は 1965 年東京大学経済学部卒業。スイス国際経営開発研究所(IMD) MBA、住友金属工業株式会社、マトソンテクノロジージャパン社長などを経て、立命館大学教授をつとめられました。





写真・図2 アカ族の高床式穀倉。若林弘子『高床式建物の源流』弘文堂より。



写真・図8 伊勢神宮（内宮）正殿 長辺約 10.8 メートル、短辺約 5.4 メートル。松平乗昌『図説 伊勢神宮』（河出書房新社）より。

ハンチントン『文明の衝突』が、世界をキリスト教圏、イスラム教圏などと分類したのにならうていえば、日本はアニミズム系文化圏だとするのがよいだろう。すると、日本を、“アニミズム系文化圏の日本、と呼ぶことが可能になる。（中略）アニミズム系の神にこころより感謝したい。工藤隆

## 追悼

令和 4 年 7 月 8 日、安倍晋三元内閣総理大臣が選挙遊説中に凶弾に倒れ帰らざる人となりました。安倍晋三元首相は平成 28 年 5 月「G7 伊勢志摩サミット」にて伊勢神宮内宮へ欧米首脳を案内され、日本国は神武天皇による建国神話を起源とする国で最高神は「天照大神」とよぶ女性神であることを G7 の首脳に示されました。今回の拙文『熊野詣』は安倍晋三元首相が世界の指導者に伝えようとした日本国の建国神話、自然観、美意識をたどる旅でもありました。安倍晋三元首相の逝去はどのように悔やんでもどうにもすべがありません。願わくは神界に昇られた時には「八咫鳥」となって日本国を護りたまえ。つつしんで哀悼の誠をこの拙文『熊野詣』に託させていただきます。

令和 4 年 7 月 9 日 石尾賢一